千葉市台畑遺跡

— 平成15年度調査 —

2004

正　　福　　寺

財団法人 千葉市教育振興財団

例　　言

1　本書は，正福寺による墓地造成計画に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査から本報告書作成に至る業務は，正福寺の委託を受け，千葉県教育委員会および千葉市教育委員会の指導のもとに，財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターが実施した。

3　発掘調査は，平成15年10月１日より11月７日まで700㎡を実施し，倉田義広，古谷渉，塚原勇人が担当した。

4　整理作業は，平成15年11月１日より11月28日まで実施し，塚原勇人が担当した。

5　本書に収録した台畑遺跡の出土資料ならびに調査記録は，すべて千葉市埋蔵文化財調査センターで収蔵，保管している。

6　発掘調査から報告書刊行に至るまでご指導をいただいた千葉県教育庁振興部文化財課，千葉市教育委員会生涯学習部文化課をはじめ，現地での発掘調査から出土遺物の整理の過程でご協力いただいた多数の方々に感謝の意を表す。

凡　　例

1　遺構の縮尺は竪穴住居跡・土壙を1/60，カマド・炉を1/30，溝状遺構は1/100とし，各挿図にスケールを表示している。

2　遺構実測図のうち，カマドについては粘土範囲を，焼土，炉については焼土範囲をスクリーントーンで表した。

3　遺構実測図の水糸高は海抜高を示している。

4　遺物の縮尺は，土器・陶磁器を1/4，縄文土器拓影図を1/3，石器を2/3・1/2，土製品を1/2・1/3，鉄製品を1/2とし，各挿図にスケールを表示している。

5　遺物実測図で，須恵器の断面はスクリーントーンで示している。また，実測図中のスクリーントーンは赤彩・施柚範囲を示している。

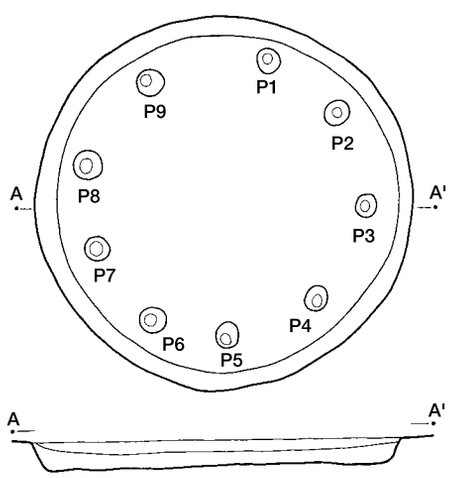
6　遺物観察表における計測値は，推定復元値・残存値を（　　）で示し，土器の色調については，農林省農林水産技術会議事務局監修の1994年発行『新版　標準土色帖』を用いて表記している。

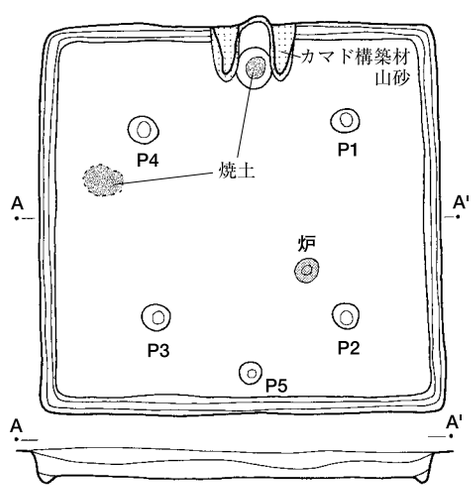
7　なお，本書中において使用した遺構番号，現地作業に際して用いたものを改訂している。その変更した遺構番号の対照は，目次末の別表に示すとおりである。

8　今回の調査では調査範囲全体を公共座標第Ⅸ系のＸ＝－41052.015ｍＹ＝27884.577ｍを起点として５ｍ×５ｍのグリットを組み北から南にアルファベット西から東に算用数字で名称を付け順次東に連動させ例えば「2C」として表した。ここで設定されたグリッド杭をもって遺物の取り上げおよび遺構の調査を進める上での基準とした。基本層序は第Ⅰ層が表土層，第Ⅱ層が暗褐色土層，第Ⅲ層がソフトローム層，第Ⅳ層がハードローム層である。

別表　遺構番号対応表

遺構番号	旧番号	遺構番号	旧番号
27号住居跡	2号住居跡	27号土壙	1号土壙
28号住居跡	1号住居跡	28号土壙	2号土壙
29号住居跡	3号住居跡	29号土壙	3号土壙
30号住居跡	4号住居跡	30号土壙	4号土壙
31号住居跡	5号住居跡	31号土壙	7号土壙
32号住居跡	10号住居跡	32号土壙	8号土壙
33号住居跡	6号住居跡	33号土壙	9号土壙
34号住居跡	7号住居跡	2号地下式坑	5号土壙
35号住居跡	8号住居跡	攪乱のため欠番	6号土壙
36号住居跡	9号住居跡	4号溝状遺構	1号溝状遺構
37号住居跡	11号住居跡	5号溝状遺構	2号溝状遺構





遺構実測図　カマド構築材　焼土　炉　● 土器・その他遺物

遺物実測図　煤　自然釉　赤彩

目　　次

例　言
第１章　序　説
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　遺跡の位置と歴史的環境 …… 1
第２章　遺構と遺物
　第１節　竪穴住居跡 …… 4
　第２節　土壙・地下式坑 …… 28
　第３節　溝状遺構 …… 29
　第４節　ピット群・調査区出土遺物 …… 29
第３章　まとめ …… 30
写真図版
抄　録

挿 図 目 次

第１図　台畑遺跡と周辺遺跡 …… 2
第２図　台畑遺跡周辺地形図 …… 2
第３図　遺構配置図 …… 3
第４図　27号住居跡実測図 …… 4
第５図　27号住居跡出土遺物実測図１ …… 5
第６図　27号住居跡出土遺物実測図２ …… 6
第７図　28号住居跡・カマド実測図 …… 7
第８図　28号住居跡炉１・２及び出土遺物実測図 …… 8
第９図　29号・30号住居跡実測図 …… 9
第10図　29号・30号住居跡カマド実測図 …… 10
第11図　29号住居跡出土遺物実測図 …… 11
第12図　30号住居跡出土遺物実測図 …… 11
第13図　31号・32号住居跡実測図 …… 12
第14図　31号住居跡カマド実測図 …… 13
第15図　31号住居跡出土遺物実測図１ …… 14
第16図　31号住居跡出土遺物実測図２ …… 15
第17図　33号住居跡・カマド実測図 …… 16
第18図　33号住居跡出土遺物実測図 …… 17
第19図　34号住居跡・カマド実測図 …… 18

第20図　34号住居跡出土遺物実測図…… 19
第21図　35号住居跡実測図…… 20
第22図　35号住居跡カマド・炉・出土遺物実測図…… 21
第23図　36号住居跡・カマド・出土遺物実測図…… 22
第24図　37号住居跡・カマド・貯蔵穴実測図…… 23
第25図　37号住居跡出土遺物実測図…… 24
第26図　土壙・地下式坑実測図…… 25
第27図　４号・５号溝状遺構実測図…… 26
第28図　ピット群実測図…… 27
第29図　４号・５号溝状遺構出土遺物実測図…… 28
第30図　調査区出土遺物実測図…… 28

表　目　次

第１表　27号住居跡出土遺物観察表…… 31
第２表　28号住居跡出土遺物観察表…… 31
第３表　29号住居跡出土遺物観察表…… 32
第４表　30号住居跡出土遺物観察表…… 32
第５表　31号住居跡出土遺物観察表…… 32
第６表　33号住居跡出土遺物観察表…… 33
第７表　34号住居跡出土遺物観察表…… 33
第８表　35号住居跡出土遺物観察表…… 34
第９表　36号住居跡出土遺物観察表…… 34
第10表　37号住居跡出土遺物観察表…… 34
第11表　溝状遺構・調査区出土遺物観察表… 34

写真図版目次

写真図版１　調査前状況　調査区全景（北から）　調査区全景（南から）27号住居跡
27号住居跡土器出土状況１　27号住居跡土器出土状況２　28号住居跡・31号土壙
28号住居跡カマド
写真図版２　29号・30号住居跡　29号住居跡カマド　30号住居跡カマド　31号・32号住居跡
31号住居跡旧カマド１掘方　31号住居跡旧カマド２掘方　33号住居跡　33号住居跡カマド
写真図版３　33号住居跡遺物出土状況　34号住居跡　34号住居跡カマド　35号・36号住居跡
35号住居跡カマド　36号住居跡旧カマド掘方　37号住居跡　37号住居跡カマド
写真図版４　27号土壙　28号土壙　29号土壙　30号土壙　32号土壙　33号土壙　２号地下式坑
ピット群
写真図版５　27号住居跡出土遺物
写真図版６　27号・28号・29号・31号住居跡出土遺物
写真図版７　33号・34号・35号・36号・37号住居跡出土遺物，４号・５号溝状遺構出土遺物

第１章　序　　説

第１節　調査に至る経緯

千葉市若葉区原町159-2他（事業面積1,400㎡）において正福寺（若葉区原町所在）による墓地造成事業に先立ち，「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて（照会）」文書が平成14年10月31日付け千葉市教育委員会教育長あてに提出された。事業地は周知の埋蔵文化財包蔵地であり，現地踏査の結果，千葉市教育委員会生涯学習部文化課は平成14年11月７日付けで対象地1,400㎡全域について埋蔵文化財が所在する旨を回答した。その後事業者と市教育委員会の協議により，現況で墓地になっている部分を除いた995㎡について確認調査を実施することとなり，平成14年12月10日から同年12月13日まで，財団法人千葉市教育振興財団に委託して実施した。

確認調査により調査対象範囲のほぼ全域で遺構が確認されたため，995㎡全域について引き続き協議が必要の旨を市教育委員会から事業者に通知し，さらに事業者と市教育委員会との間で埋蔵文化財の取扱いについて協議を重ねた。一部については現状のまま保存することが決定したが，計画の変更が困難である700㎡について事前に発掘調査を実施し，記録保存の措置を講じることとなった。発掘調査は財団法人千葉市教育振興財団に委託し，平成15年10月１日から同年15年11月７日まで実施された。

また，現況墓地の範囲については，改葬時の掘削，墓地造成工事に文化課職員が立ち会い，工事途中で古墳時代の竪穴住居跡（37号住居跡）を１軒確認した。今回本書に含めて報告する。

（千葉市教育委員会生涯学習部文化課）

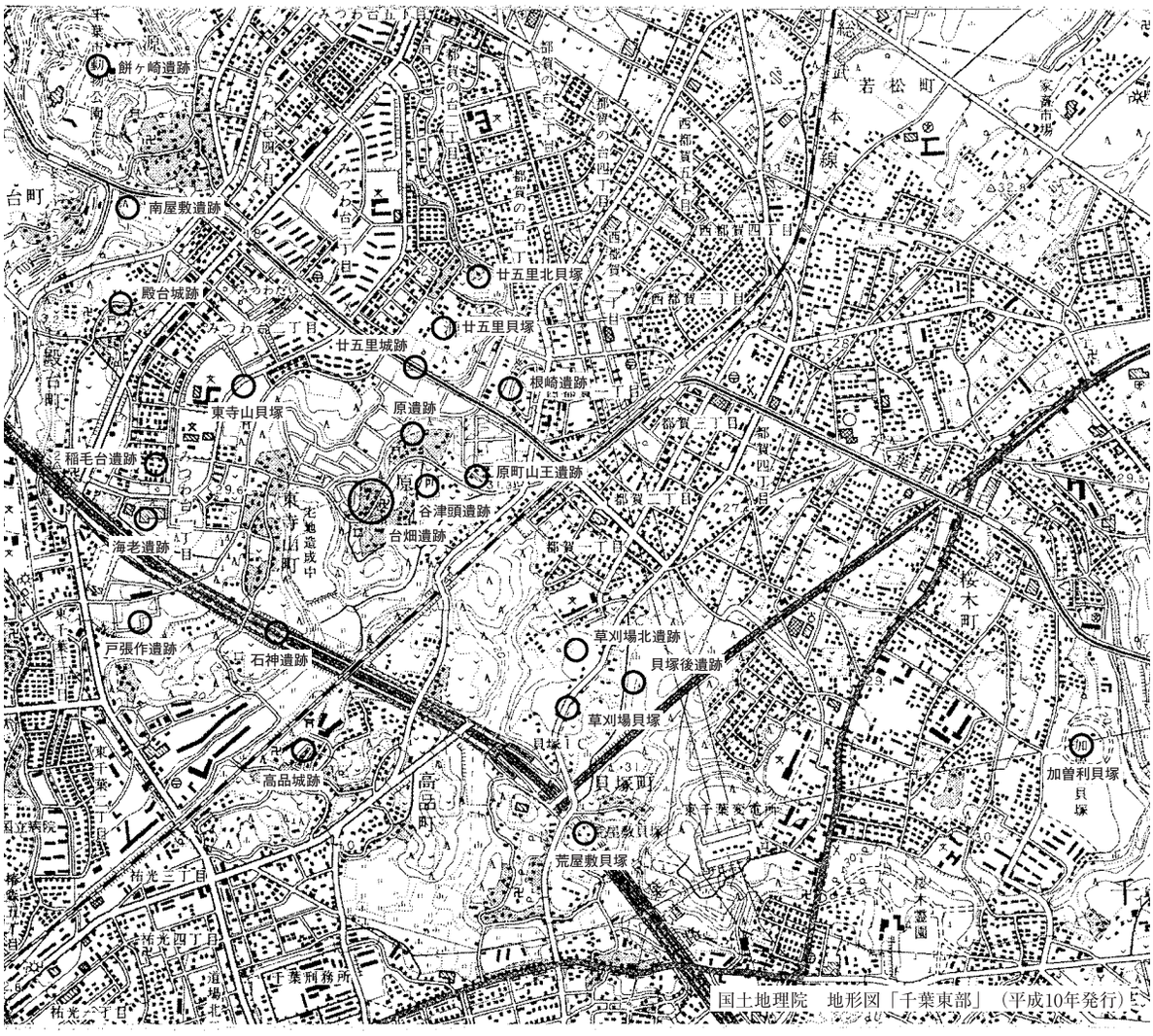
第２節　遺跡の位置と歴史的環境

台畑遺跡は京葉道路貝塚インターチェンジから北西方向に約1.4㎞離れた地点に所在し、源町付近に源を発し市街地を北から南へと流れる葭川の東支流によって開析された通称廿五里支谷の標高28～29mを測る東側台地上に立地する。

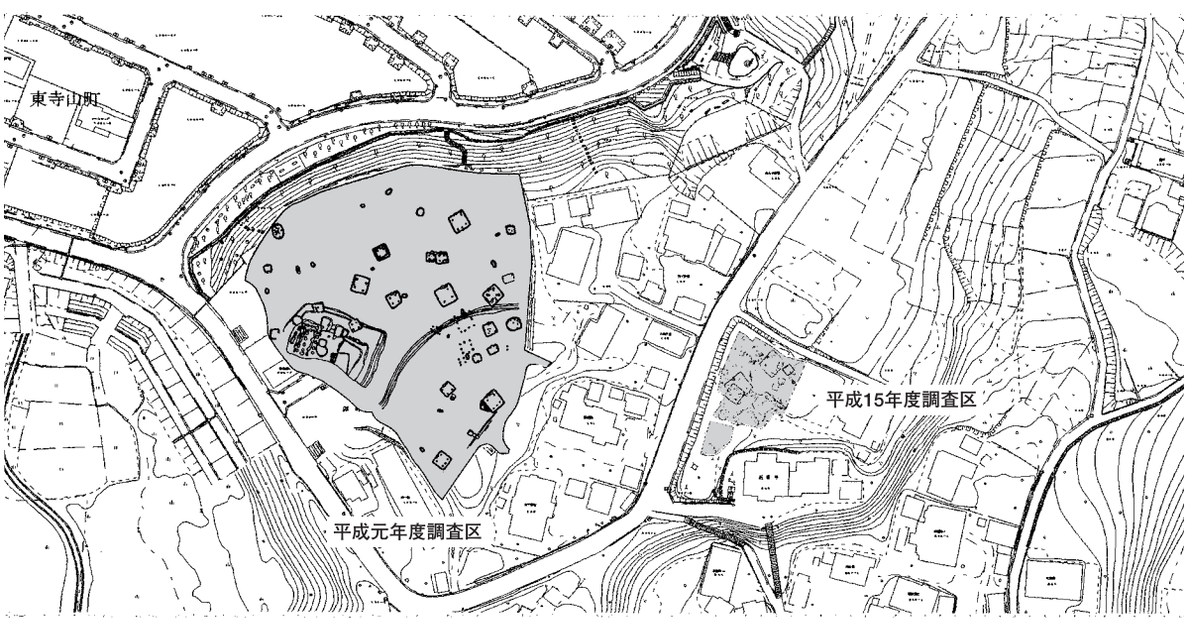
今回の調査区は，平成元年に土地区画整理事業にともない7,800㎡の本調査が実施された地点の100m程離れた東側にあたる。区画整理地内では，縄文時代中期の竪穴住居跡３軒，土壙８基他，古墳～平安時代の竪穴住居跡23軒，掘立柱建物跡４棟，土壙６基，近世屋敷跡１ケ所，地下式坑１基，土壙２基他が検出・調査された（註１）。

周辺には，旧石器時代から中世にかけて多くの遺跡の分布が認められる。旧石器時代の遺跡では，餅ケ崎遺跡（現動物公園）・草刈場北遺跡が知られ，縄文時代の遺跡では、中～後期の大型貝塚である廿五里貝塚・東寺山貝塚・草刈場貝塚・荒屋敷貝塚等が分布し，また餅ケ崎遺跡では縄文時代早期・中期末，海老遺跡では縄文時代前期末・中期末の集落跡が調査されている。弥生時代の遺跡としては，戸張作遺跡・石神遺跡が所在する。古墳時代の遺跡で前記の戸張作遺跡・石神遺跡をはじめ，海老遺跡・稲毛台遺跡において集落跡が調査されており，また戸張作遺跡をはじめ古期の群集墳の所在が知られている。奈良・平安時代の遺跡は餅ケ崎遺跡・稲毛台遺跡で集落跡が調査されている。中世の遺跡では，葭川流域にはいくつかの中世城館跡の調査も行われており，廿五里城跡・南屋敷遺跡・高品城跡等所在する。

註１　白根義久　1996『千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅱ　台畑遺跡』㈶千葉市文化財調査協会



第１図　台畑遺跡と周辺遺跡（S=1/25,000）



第２図　台畑遺跡周辺地形図（S=1/25,000）

2
3
4
5
6
Y=27884.577m
B
C
D
E
F
G
H
I
J
X=41052.015m
2B
2C
2D
3D
4D
5D
6D
2E
2F
2G
2H
2I
2J
27土
2地
28住
31土
33住
34住
30土
33土
32土
28土
29住
5溝
30住
35住
4溝
36住
29土
32住
31住
27住
37住
住　竪穴住居跡
土　土壙
溝　溝状遺構
地　地下式坑
0
10m

第３図　遺構配置図

第２章　遺構と遺物

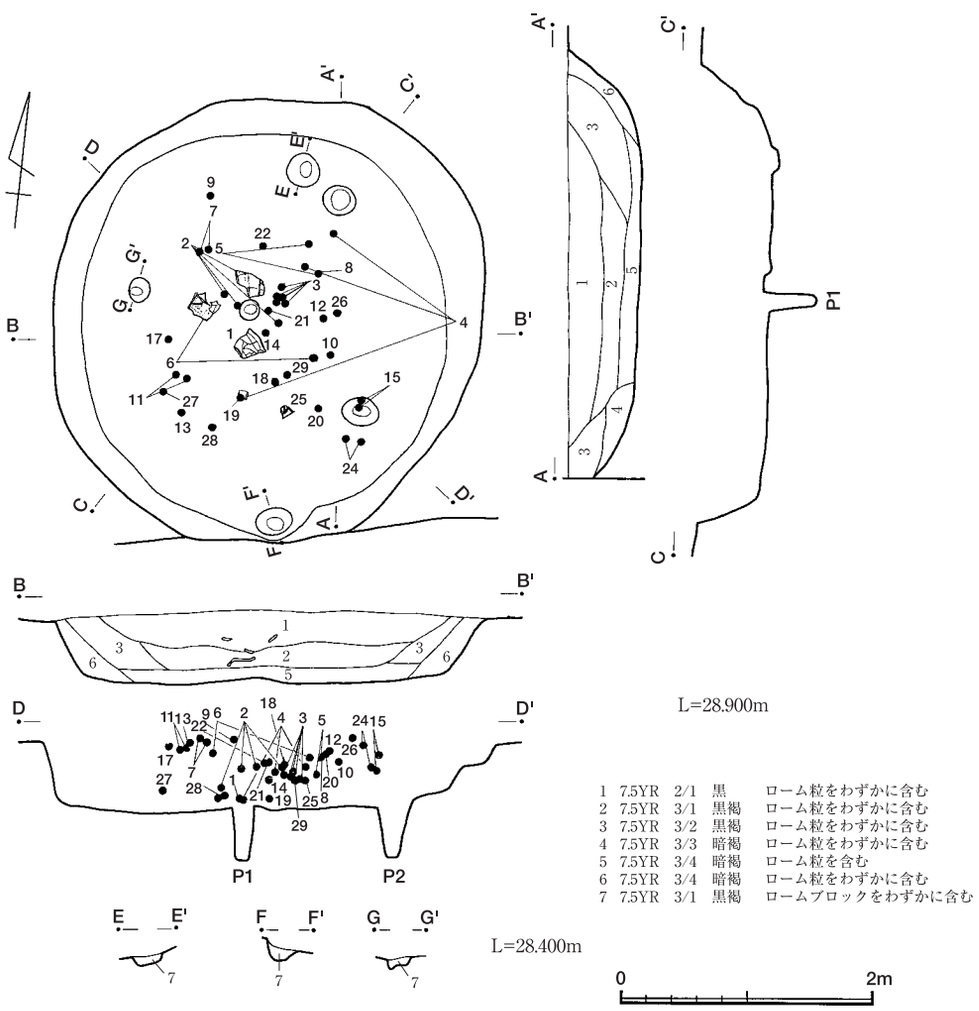
第１節　竪穴住居跡

竪穴住居跡は11軒検出されたが，その内訳は縄文時代中期阿玉台式期１軒，古墳時代後期～奈良・平安時代10軒である。

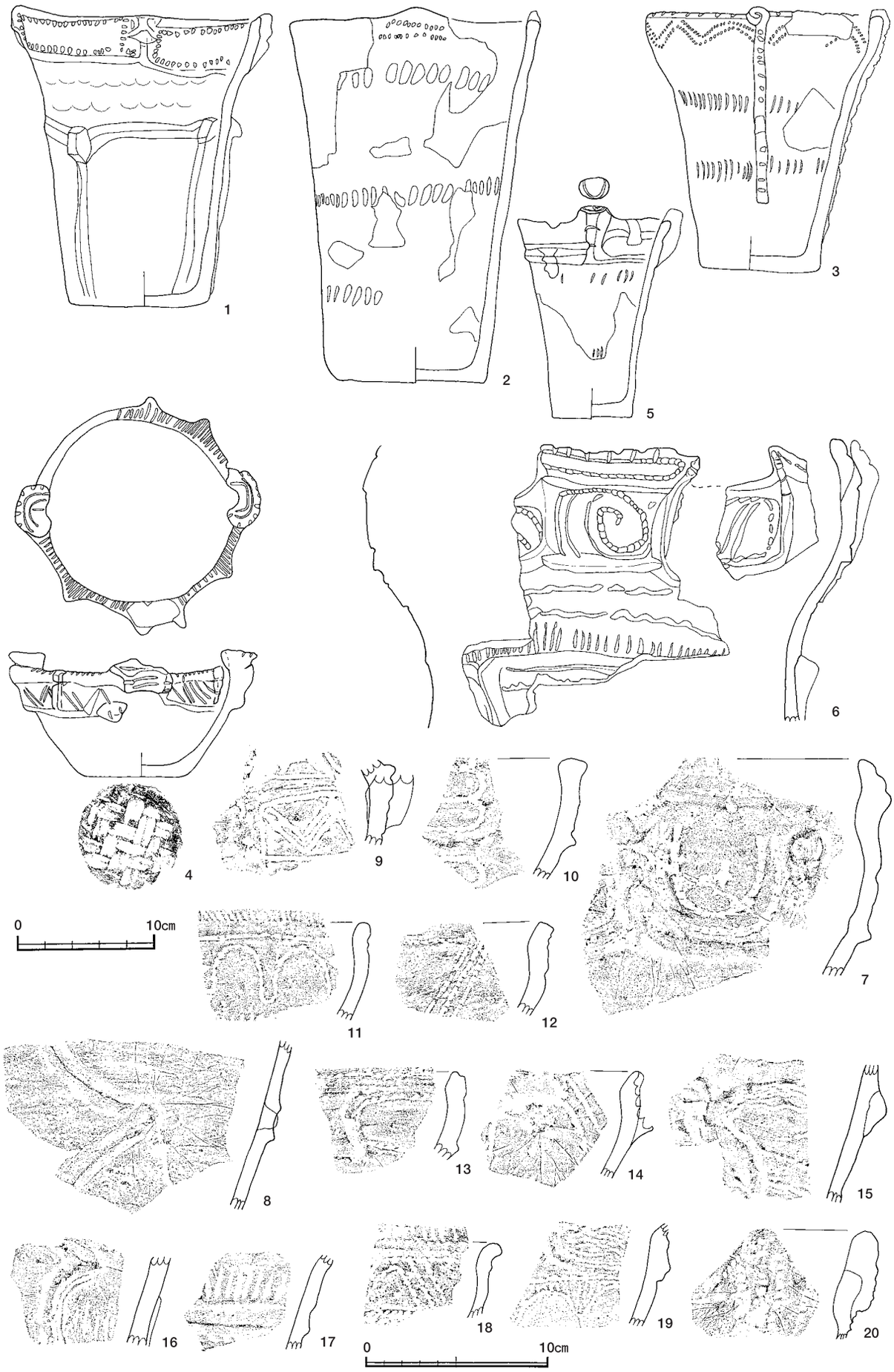
27号住居跡（第４図）

調査区の南西側2Gに所在する。南東壁の一部が調査区外に広がり，規模は3.04×3.41mの円形を呈する。壁高は確認面から0.44～0.57mを測り，緩やかに立ち上がる。周溝は認められず，床面はハードローム層に達し，堅緻である。床面中央に直径0.17×0.26m，深さ0.42mのピットが１本，壁際に５本が検出され，炉は検出されなかった。

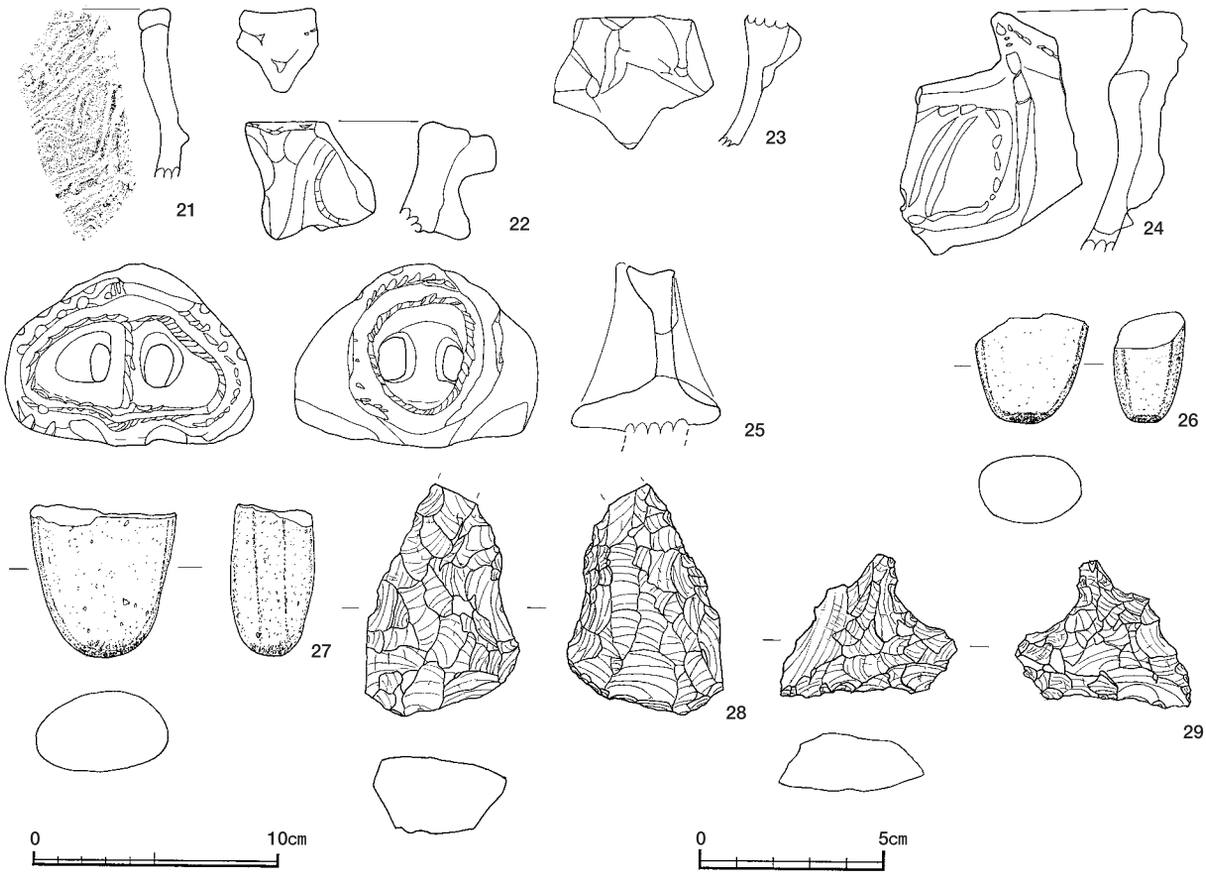
遺物は29点を図示した（第５・６図）。深鉢は筒状の胴部から緩やかに外反して口縁部にいたる器形で，断面三角形の隆帯を基調とする区画文（１・２）と角押文（１～３）・沈線文（５）・爪形文（２・３・５）の組み合わせによる文様が構成されている。１の口縁は平縁で，口縁部文様帯は枠状



第４図　27号住居跡実測図



第５図　27号住居跡出土遺物実測図１

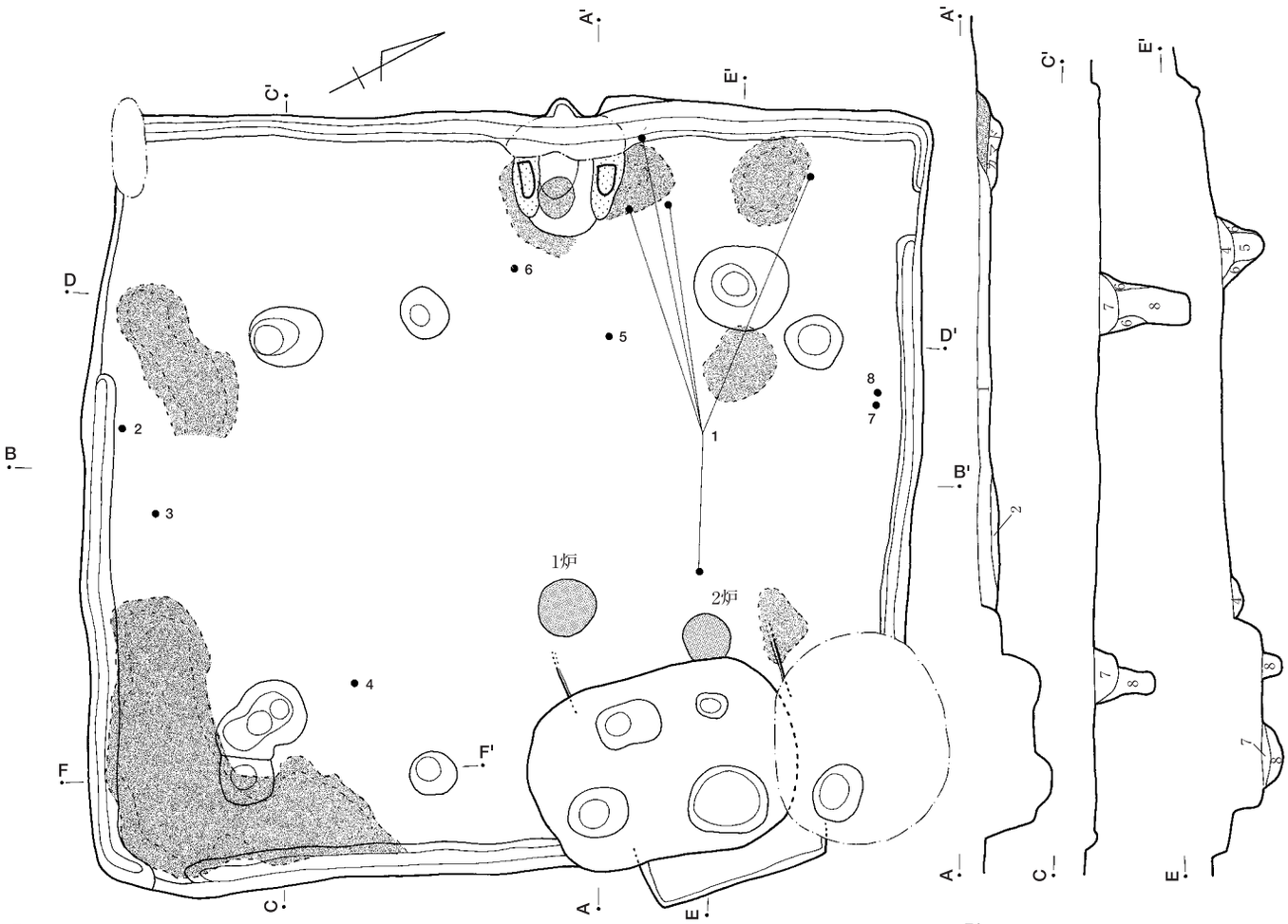


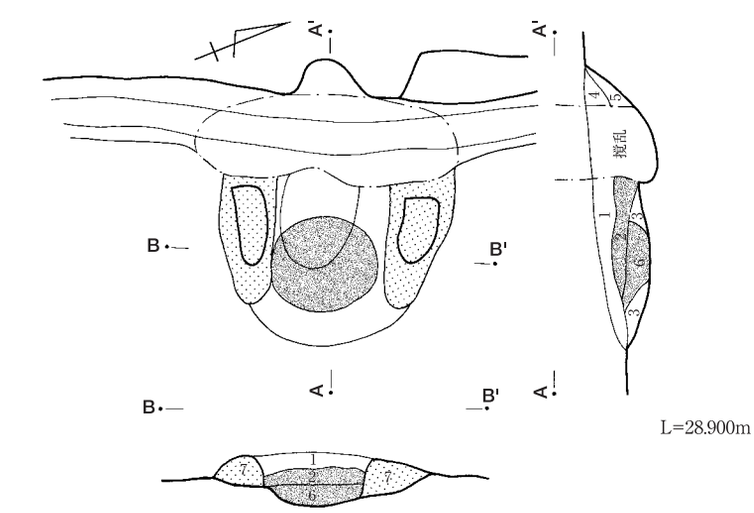
第６図　27号住居跡出土遺物実測図２

区画文に沿って角押文を施している。２は口縁部直下に爪形文が２列，胴部に幅広爪形文が３列施文されている。３は口唇に刻みを持ち，口縁部に波状の角押文２列，胴部に爪形文が２段施されている。５の胴部には爪形文が２段施文されている。４は浅鉢である。口唇に刻みを持ち，扇状把手を現存３箇所有し，底部に網代痕を残している。その他破片ではあるが，山形突起（20・21），棒状突起（22），扇状把手（24）眼鏡状に２箇所の穿孔を有する把手（25）のものや区画文内部に角押文を渦巻状（６），Ｕ字状（７），鋸歯状（９・18），波状（11）に施すものや列点を充填するもの（19）が見られる。以上の器形・文様構成と胎土に多くの雲母を含むことから，これらは阿玉台Ｉｂ式の範疇で捉えておく。26は砂岩製の，27は花崗岩製の磨石である。28・29は黒曜石製の小形の石匙と捉えておくが，石鏃の未製品の可能性もある。

28号住居跡（第７・８図）

調査区の北側，4B・5B・4C・5Cに所在する。規模は6.34×6.88mの方形を呈し，31号土壙・攪乱と重複し，北東側のコーナーは破壊されている。主軸方位はＮ－60°－Ｗである。壁高は，確認面から0.07～0.21mを測り，立ち上がりはわずかな傾斜を持つ。周溝は幅0.25～0.30m，深さ0.18～0.21mを測り，全周する。床面はソフトローム層で軟弱である。南東壁周辺に焼土が検出されたことから，焼失住居と考えられる。主柱穴は４本検出され，直径0.34～0.74m，深さ0.49～0.87mを測る。第５ピットは東壁中央にあり，直径0.41m，深さ0.48mを測る。また，主柱穴の間に補助柱穴と思われる



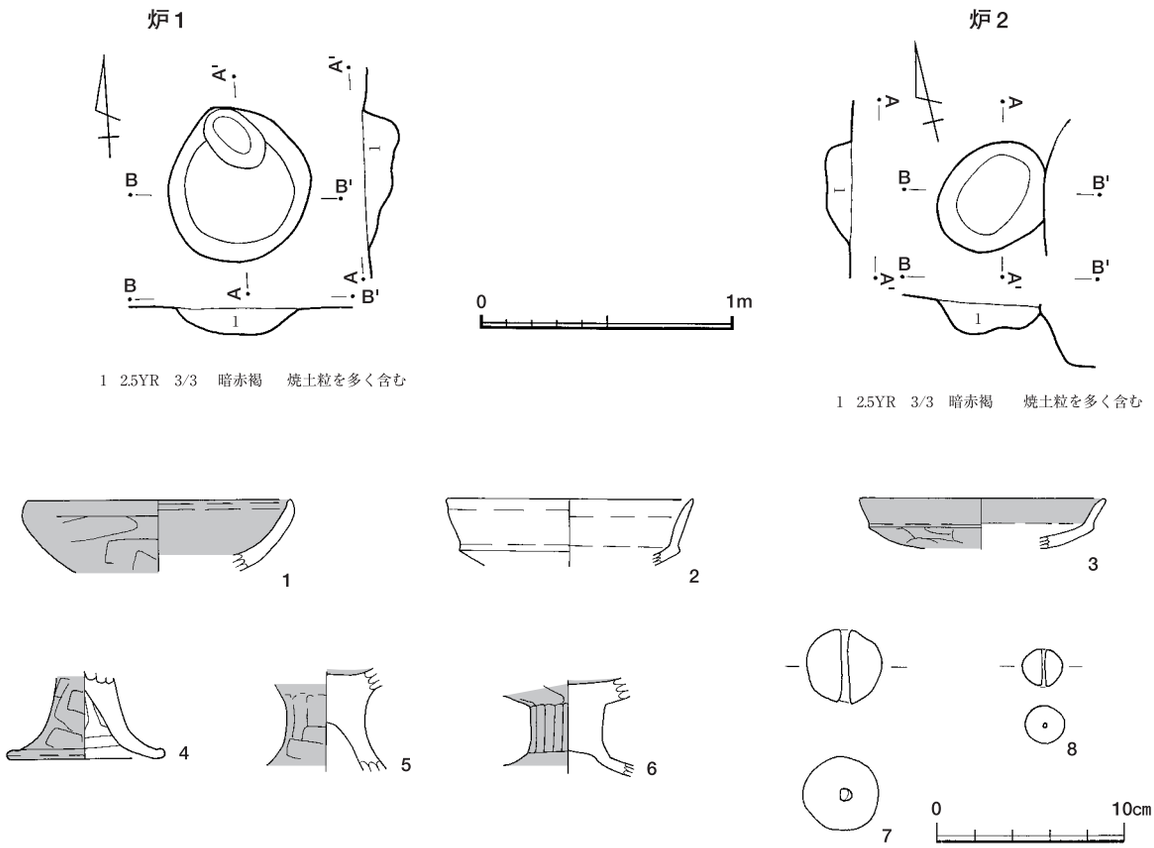


1	7.5YR	4/2	灰褐	焼土粒・ローム粒をわずかに含む
2	7.5YR	4/3	褐	ロームブロックを多く含む
3	7.5YR	4/3	褐	ローム粒主体
4	7.5YR	3/3	暗褐	ローム粒・焼土粒・炭化物を多く含む
5	7.5YR	3/3	暗褐	ローム粒・焼土粒・炭化物を含む
6	7.5YR	3/4	暗褐	ロームブロックを多く含む
7	7.5YR	3/3	暗褐	ロームブロックを多く含む
8	7.5YR	3/4	暗褐	ローム粒を多く含む
9	7.5YR	3/2	黒褐	焼土粒・炭化物を多く含む
10	7.5YR	3/2	黒褐	ローム粒を多く含む
11	7.5YR	3/2	黒褐	焼土粒をわずかに含む
12	7.5YR	3/3	暗褐	焼土粒をわずかに含む

（カマド）

1	2.5YR	4/4	にぶい赤褐	焼土粒を含む
2	2.5YR	4/3	にぶい赤褐	焼土粒・灰多く含む
3	7.5YR	3/2	暗褐	焼土粒を含む
4	5YR	4/3	にぶい赤褐	粘土粒を含む
5	5YR	4/4	にぶい赤褐	
6	5YR	3/4	暗褐	焼土粒を含む
7	5YR	4/3	にぶい赤褐	焼土粒をわずかに含む

第７図　28号住居跡・カマド実測図



第８図　28号住居跡炉１・２及び出土遺物実測図

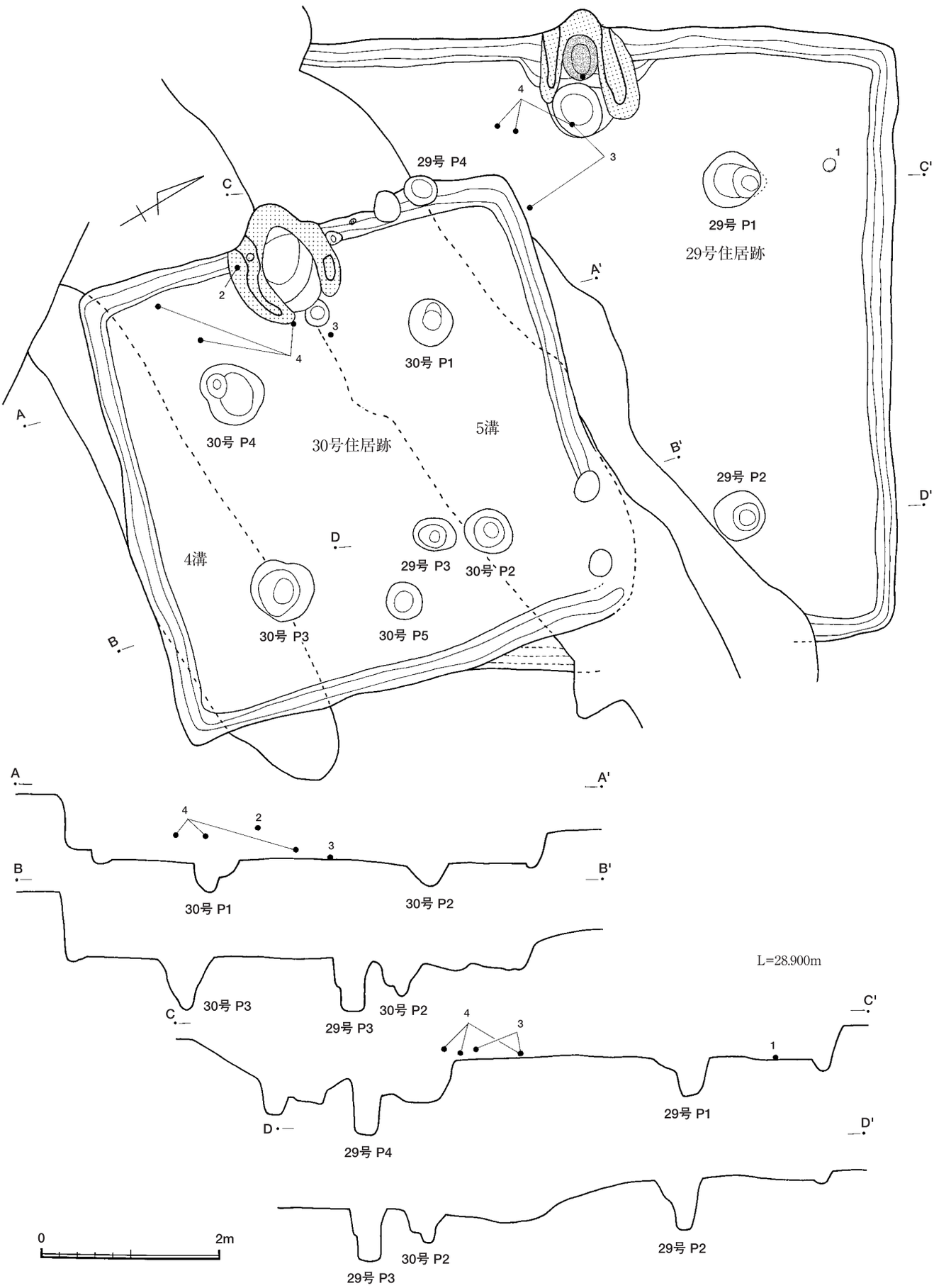
ピットが検出された。カマドは西壁中央に位置し，主軸長0.99m，全幅0.93mを測る。内壁の最大幅は中央部分で0.47m，袖長は0.87mを測り，砂質粘土を主体として構築されている。煙道部は後世の撹乱を受けている。火床面はわずかにくぼむ。また炉も２基構築されており，直径0.41 ～ 0.51m，深さ1.1 ～ 1.4mを測る。

遺物は８点を図示した（第８図）。１・５・６はカマド付近から出土した。１・２・３は土師器坏，１・３は内外面に赤彩を施し，２・３は体部に綾を持つ。４・５・６は高坏脚部，外面と坏部内面に赤彩を施している。７・８は土玉である。

29号住居跡（第９・10図）

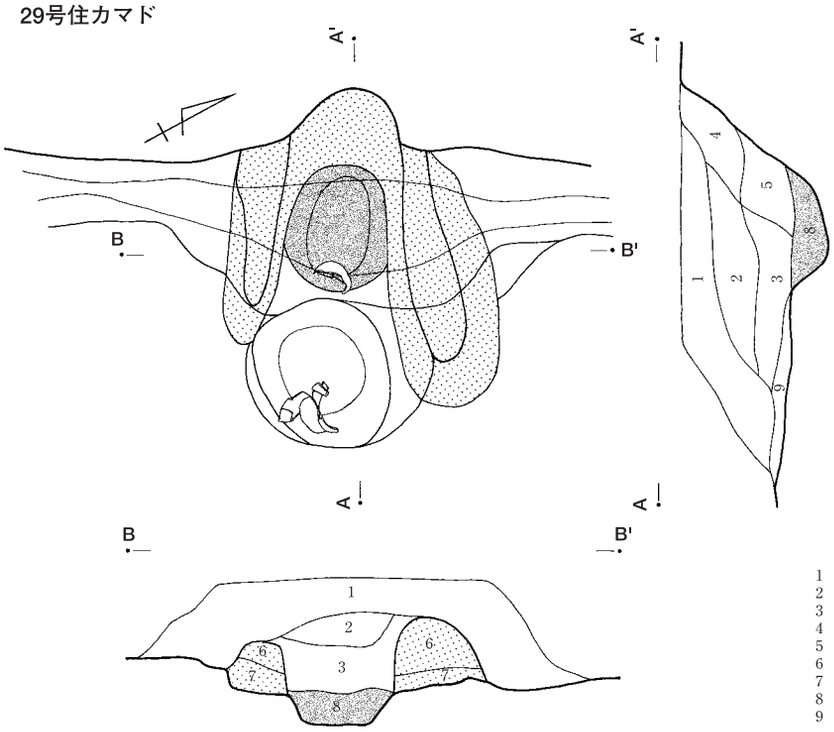
調査区の南西側，2D・3D・2E・3Eに所在する。規模は6.56×6.88mの方形を呈し，30号住居跡・５号溝状遺構と重複し南側の大半を破壊されている。主軸方位はN－64°－Wである。壁高は，確認面から0.30 ～ 0.59mを測り，ほぼ垂直に立ち上がる。周溝は幅0.19 ～ 0.31m，深さ0.18 ～ 0.20mを測り全周する。床面はソフトローム層で軟弱である。主柱穴は4本検出され，直径0.62 ～ 0.74m，深さ0.41 ～ 0.53mを測る。第５ピットは東壁中央にあり，直径0.60m，深さ0.30mを測る。カマドは西壁中央に位置し，主軸長1.43m，全幅1.60mを測る。内壁の最大幅は中央部分で0.41m，袖長は1.30mを測り，砂質粘土を主体として構築されている。火床面は直径0.51×0.60m，深さ0.40mを測る。

遺物は４点を図示した（第11図）。２・３・４はカマド内から出土した。１・２の土師器坏は内外面に赤彩を施し，また１の内面には格子状のヘラ書きが施されている。３の高坏は内外面に赤彩を施



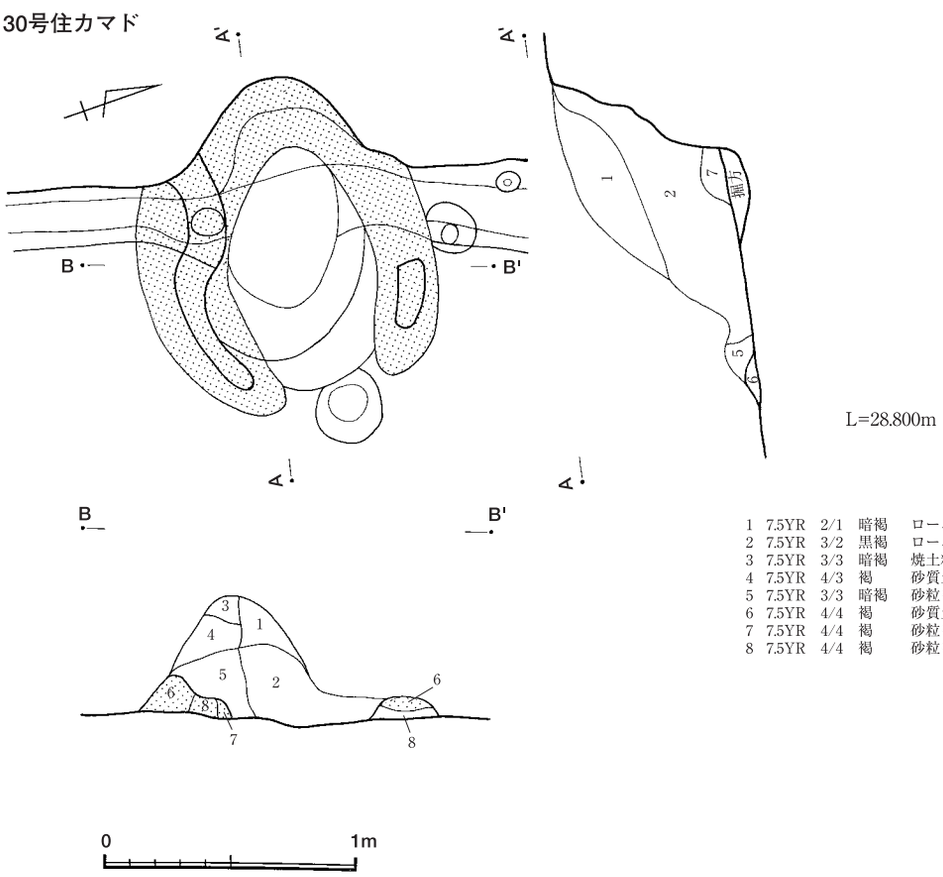
第９図　29号・30号住居跡実測図

29号住カマド



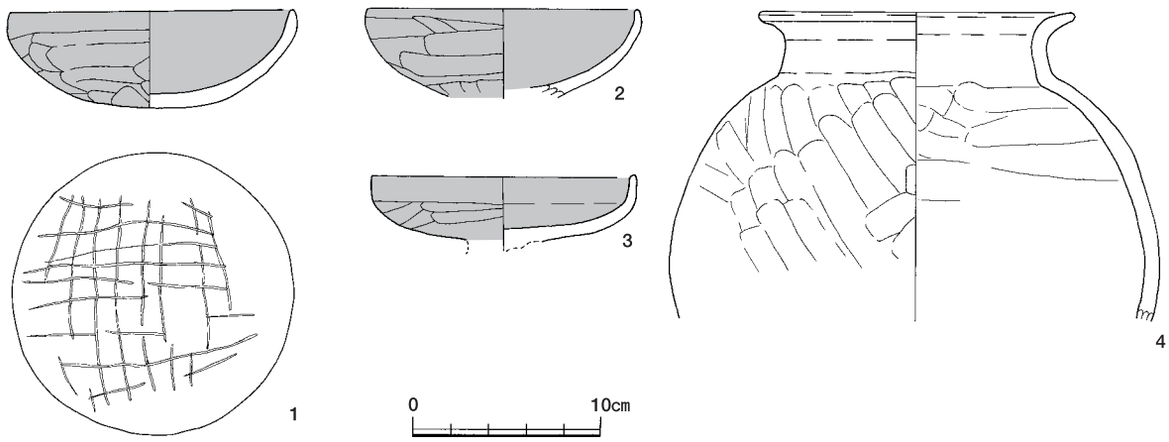
1	7.5YR	3/3	暗褐	ローム粒をわずかに含む
2	2.5YR	3/2	暗赤褐	焼土粒をわずかに含む
3	2.5YR	3/4	暗赤褐	焼土粒を含む
4	2.5YR	3/3	暗褐	ローム粒をわずかに含む
5	5YR	3/3	暗赤褐	焼土粒を含む
6	2.5YR	3/3	暗赤褐	焼けた砂質土層
7	7.5YR	3/2	黒褐	砂質土層
8	2.5YR	3/4	暗赤褐	焼土ブロックを多く含む
9	2.5YR	3/2	暗赤褐	焼土ブロックをわずかに含む

30号住カマド

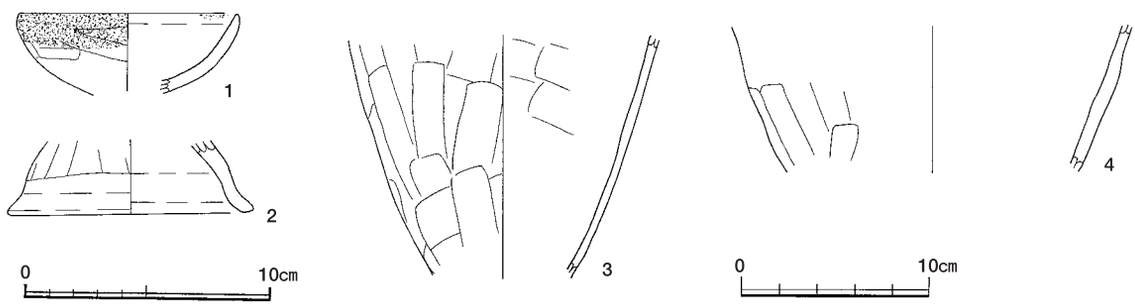


1	7.5YR	2/1	暗褐	ローム粒をわずかに含む
2	7.5YR	3/2	黒褐	ローム粒をわずかに含む
3	7.5YR	3/3	暗褐	焼土粒・炭化物粒をわずかに含む
4	7.5YR	4/3	褐	砂質土層
5	7.5YR	3/3	暗褐	砂粒を含む
6	7.5YR	4/4	褐	砂質土層
7	7.5YR	4/4	褐	砂粒を多く含む
8	7.5YR	4/4	褐	砂粒を含む

第10図　29号・30号住居跡カマド実測図



第11図　29号住居跡出土遺物実測図



第12図　30号住居跡出土遺物実測図

している。４の土師器甕は球胴形の胴部を持つ。

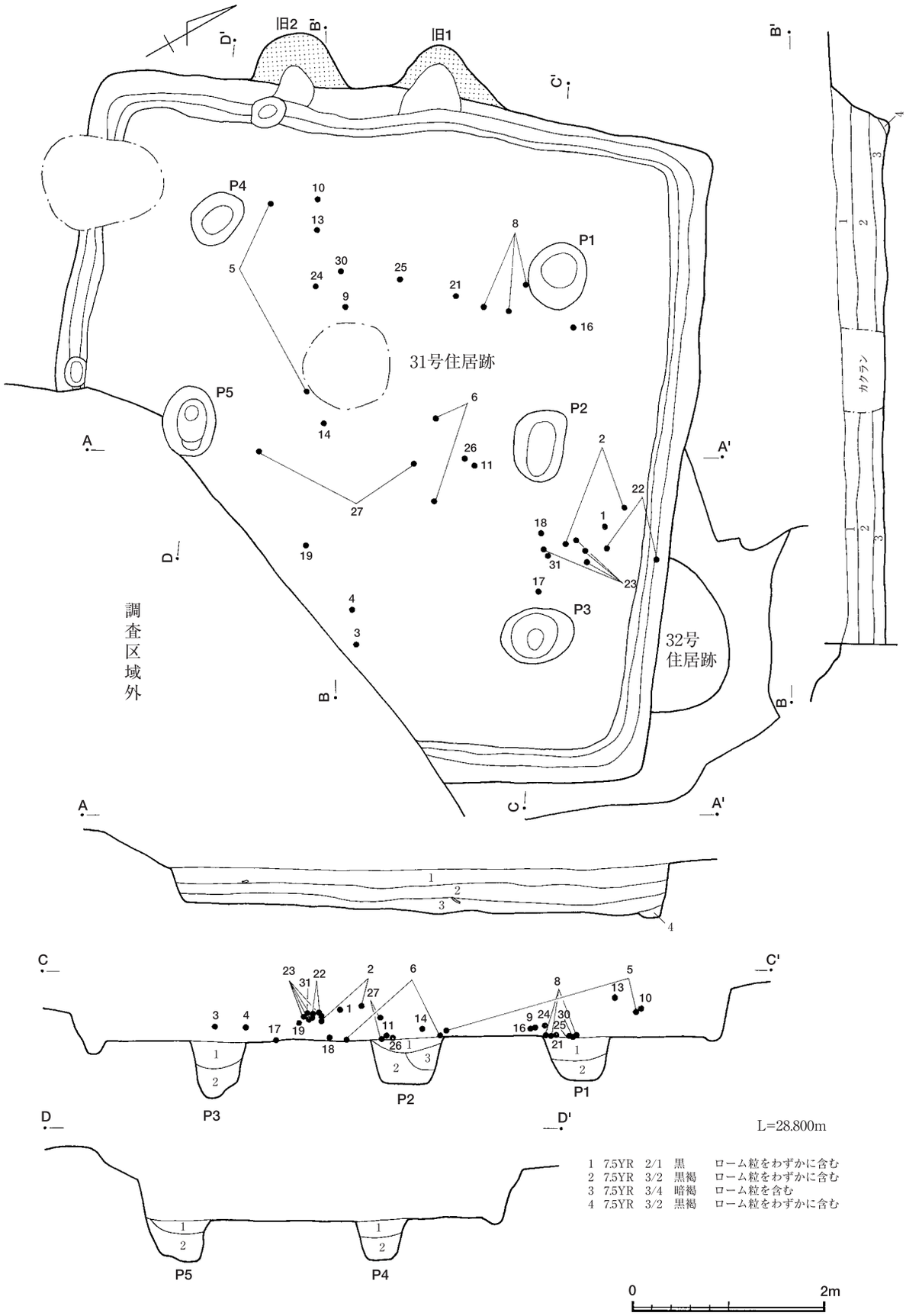
30号住居跡（第９・10図）

調査区の南西側，2E・3E・2F・3Fに所在する。規模は5.12×4.80mの方形を呈し，４号・５号溝状遺構と重複し破壊されている。主軸方位はN－76°－Wである。壁高は，確認面から0.62～0.74mを測り，ほぼ垂直に立ち上がる。周溝は幅0.20～0.34m，深さ0.08～0.11mを測り，全周する。床面はハードローム層に達し，堅緻である。主柱穴は４本検出され，直径0.49～0.71m，深さ0.21～0.55mを測る。第５ピットは東壁中央にあり，直径0.44m，深さ0.27mを測る。カマドは西壁中央に位置し，北側は４号溝により破壊されている。主軸長1.47m，全幅1.14mを測る。内壁の最大幅は中央部分で0.58m，袖長は0.93mを測り，砂質粘土を主体として構築されている。火床面の痕跡は検出されなかった。

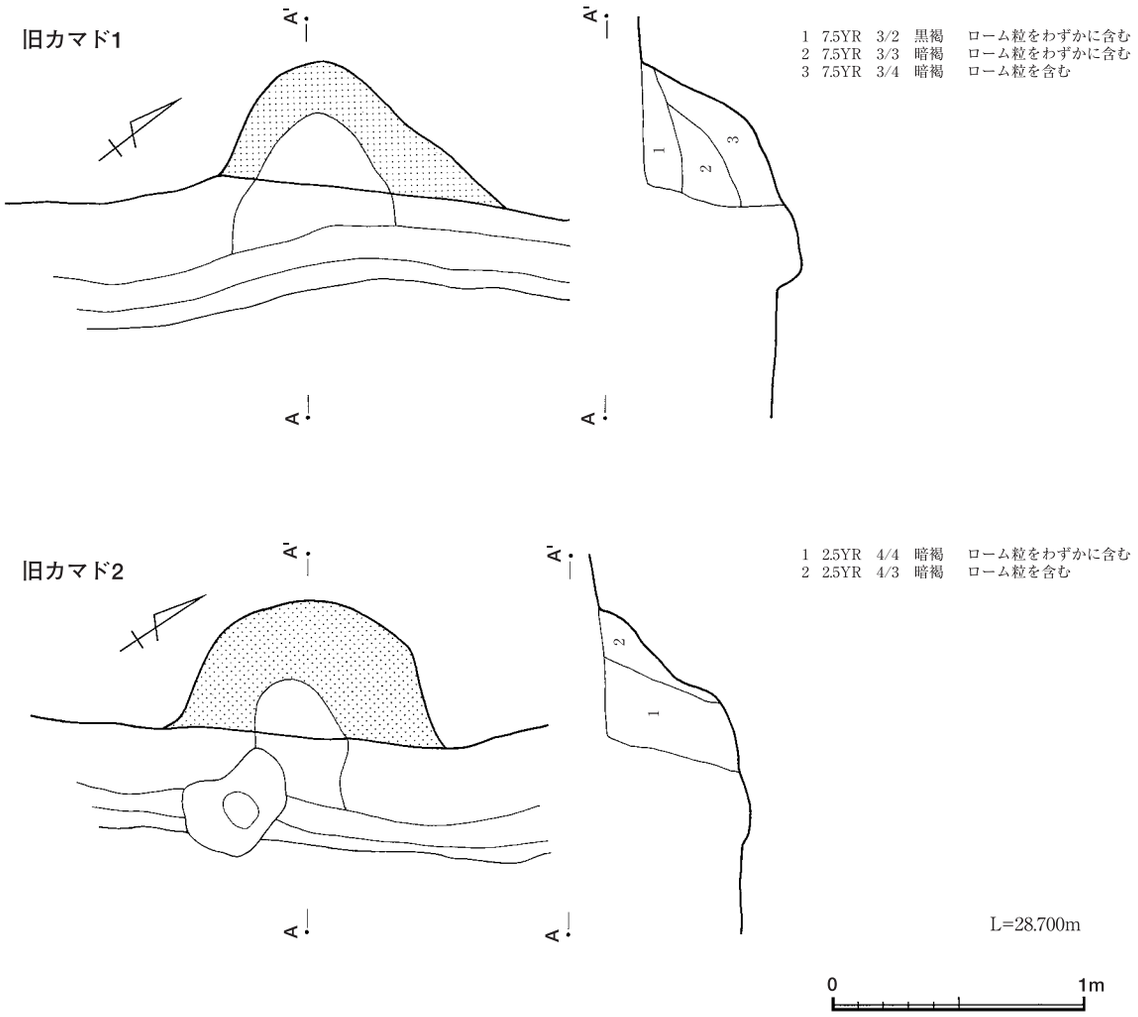
遺物は４点を図示した（第12図）。２・３・４はカマド付近から出土した。１の土師器坏は内面にミガキと黒色処理を施している。２は高坏脚部，３・４は土師器甕である。

31号住居跡（第13・14図）

調査区の南西側，3F・4F・3G・4Gに所在する。規模は6.46×6.42mの方形を呈し，南東側は調査区外に広がり，西側は32号住居跡と重複している。主軸方位はN－56°－Wである。壁高は，確認面から0.45～0.57mを測り，ほぼ垂直に立ち上がる。周溝は幅0.28～0.37m，深さ0.08～0.10mを測り，



第13図　31号・32号住居跡実測図



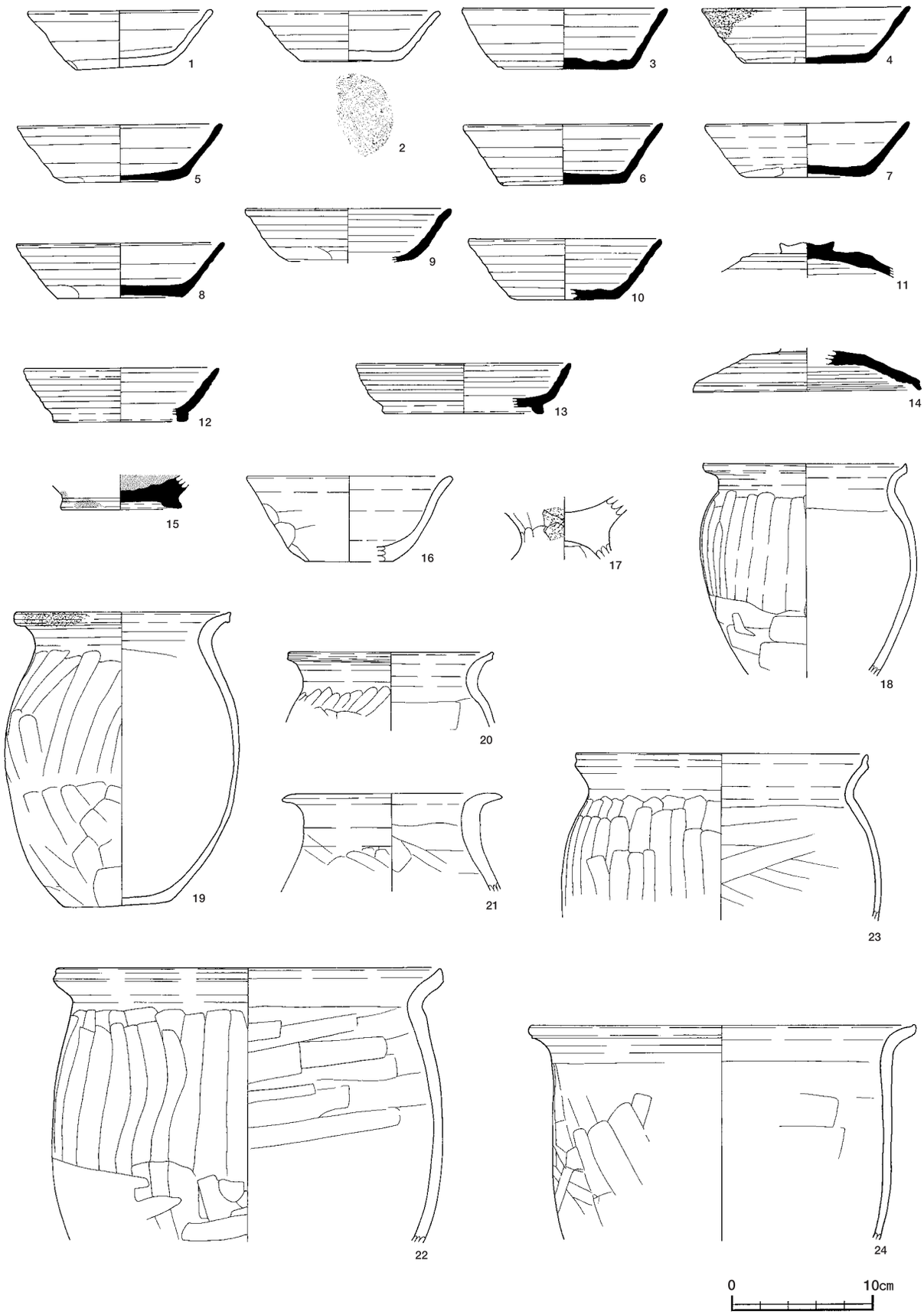
第14図　31号住居跡カマド実測図

全周する。床面はハードローム層に達し，堅緻である。主柱穴は５本検出され，調査区外部分を含めると主柱穴の数は６本と想定される。直径0.50 ～ 0.71m，深さ0.33 ～ 0.51mを測る。第５ピットは検出されず，調査区外の可能性も考えられる。旧カマドと考えられる掘り込みが西壁に２基検出されたことから，カマドは調査区外の東壁にあると想定される。

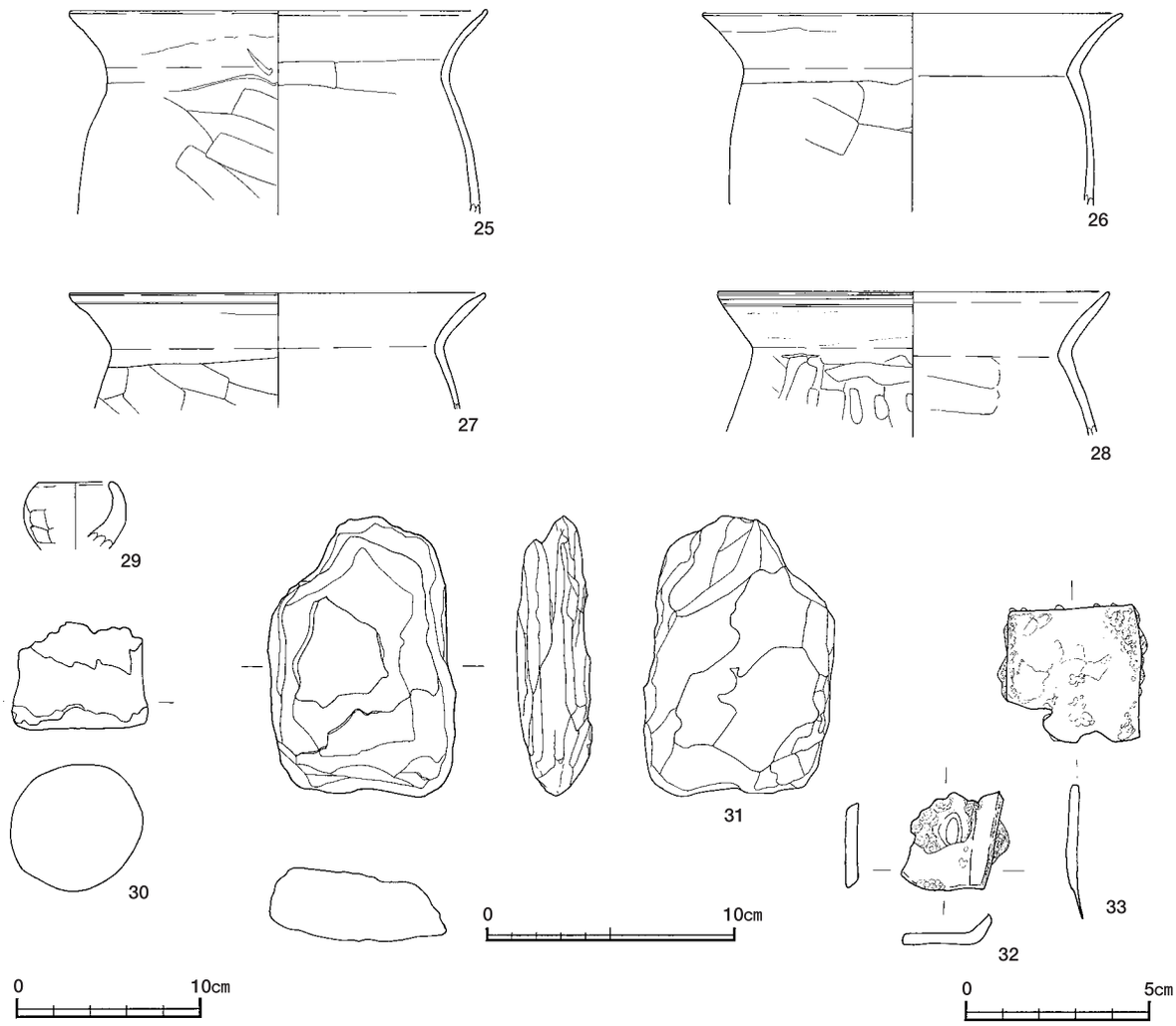
遺物は比較的多く出土し，33点を図示した（第15・16図）。６・11・16・18・19・21・25・30は床面直上から出土した。１・２の土師器坏はロクロ成形後，底部に手持ち・回転ヘラ削りを施す。器肉は厚く，口縁部はやや外反する。３～ 10・14の須恵器坏はロクロ成形後，底部を回転ヘラ切りし手持ちヘラ削りを施す。胎土に雲母を多く含み，常陸産と考えられる。12・13の須恵器高台付坏は胎土は緻密であり東海産と考えられる。20・25・27は武蔵型甕，22・23は常総型甕である。その他の遺物として手捏ね土器（29），支脚（30），鎌（32・33）がある。

32号住居跡（第13図）

調査区の南西側，2D・3D・2E・3Eに所在する。調査時当初31号住居跡の一部として調査してい



第15図　31号住居跡出土遺物実測図１



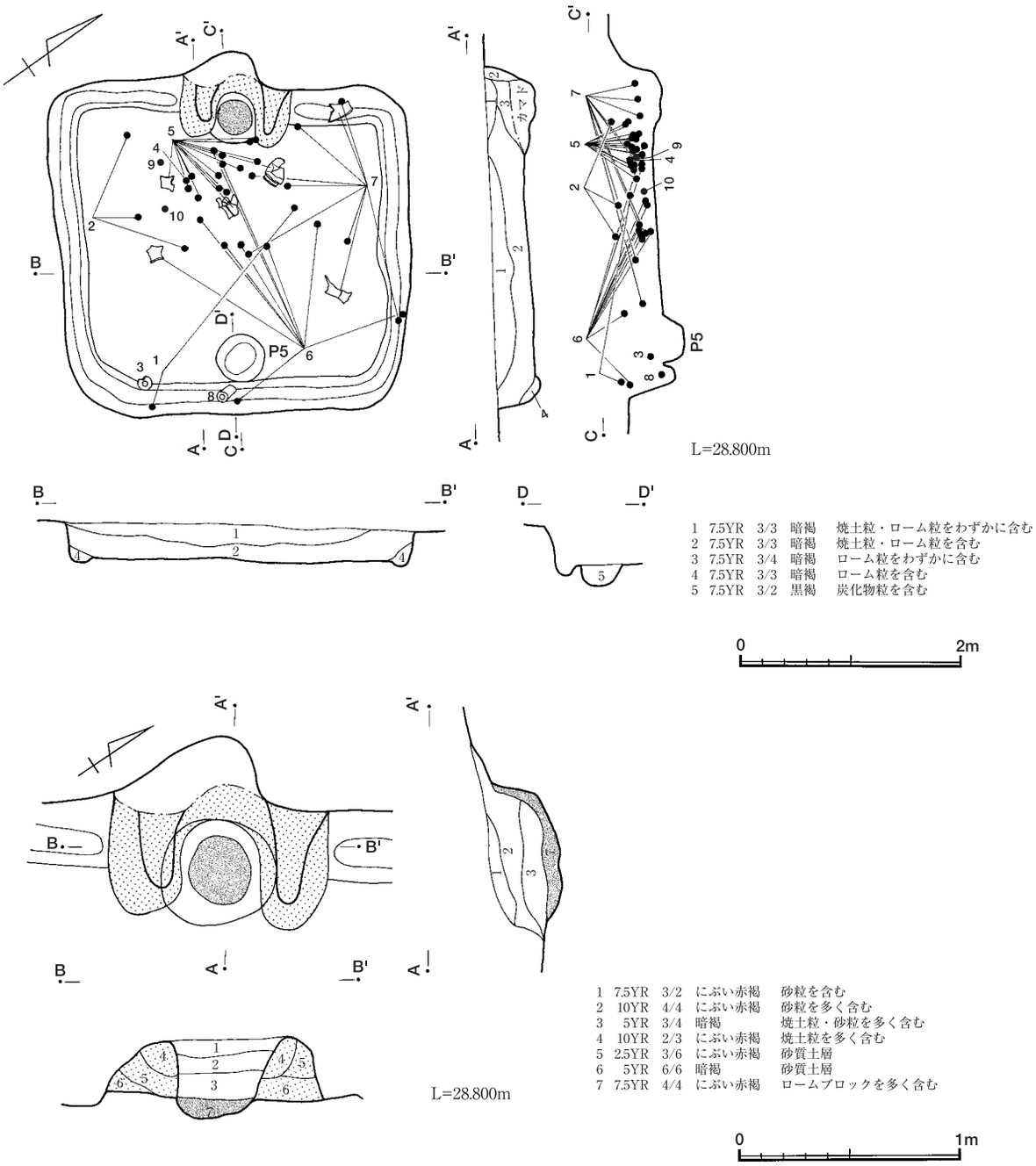
第16図　31号住居跡出土遺物実測図２

たが，検出された硬化面の標高が31号住居跡の床面と異なり高いことから，別個の竪穴住居跡として捉えることとなった。31号住居跡を廃棄後，構築されていると思われるが，全体のプランは把握できず，硬化面のみが確認された。

33号住居跡（第17図）

調査区の北東側，に5B・6B・5C・6Cに所在する。規模は3.00×3.24mの方形を呈し，34号住居跡の南西隅と重複している。主軸方位はN－61°－Wである。壁高は，確認面から0.31～0.56mを測り，立ち上がりはやや傾斜している。周溝は幅0.21～0.37m，深さ0.06～0.07mを測り，全周する。床面はソフトローム層で軟弱である。主柱穴は検出されなかった。第５ピットは東壁中央にあり，直径0.44m，深さ0.20mを測る。カマドは西壁中央に位置し，主軸長1.35m，全幅1.98mを測る。内壁の最大幅は中央部分で0.64m，袖長は1.70mを測り，砂質粘土を主体として構築されている。煙道部は後世の撹乱を受けている。火床面は直径0.57×0.67m，深さ0.07mを測る。

遺物は10点を図示した（第18図）。１は内外面に赤彩を施す土師器坏であるが，覆土上層から出土しており，混入品と考えられる。２・３は須恵器坏であり，３の底部には朱書きが施されているが，

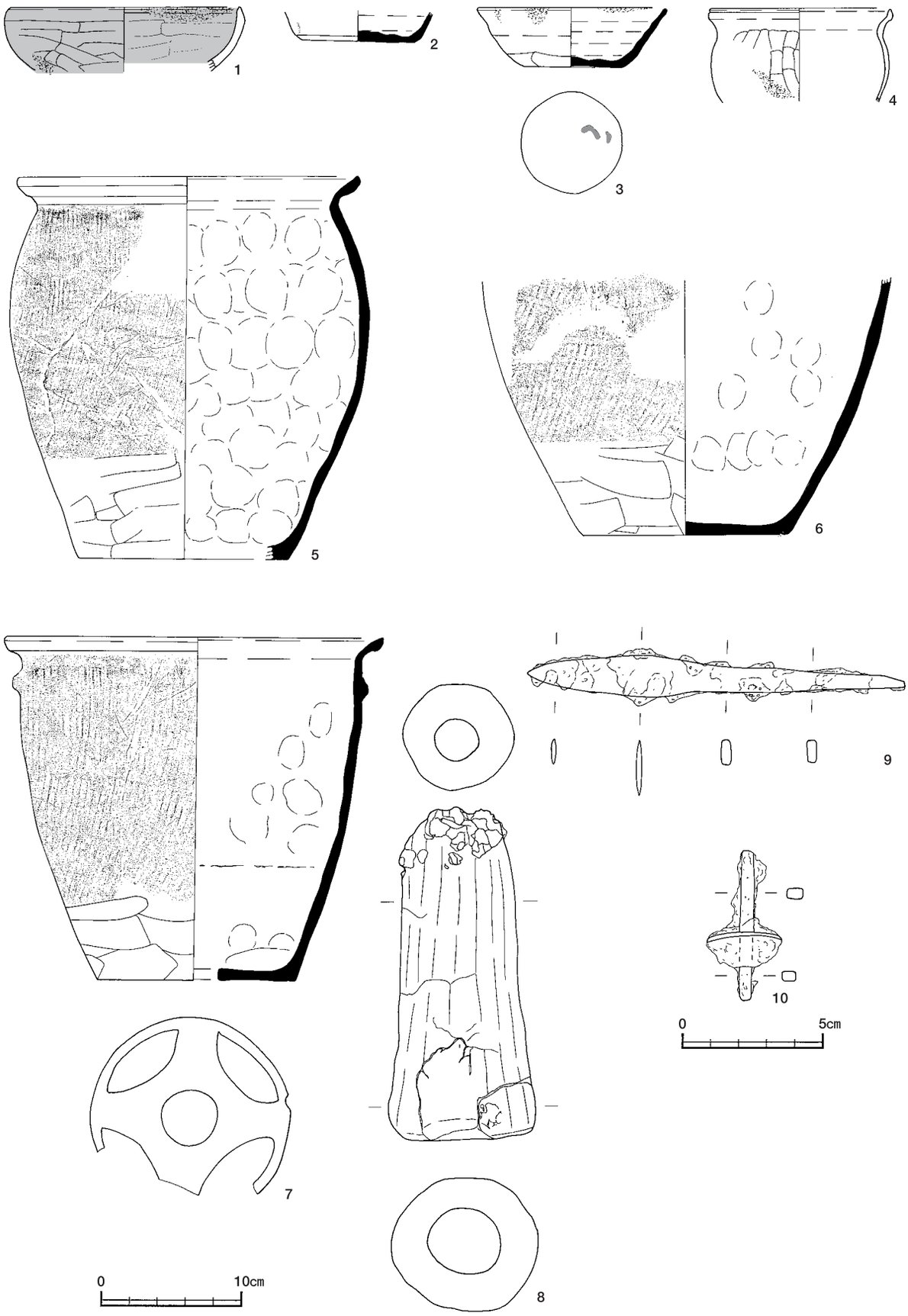


第17図　33号住居跡・カマド実測図

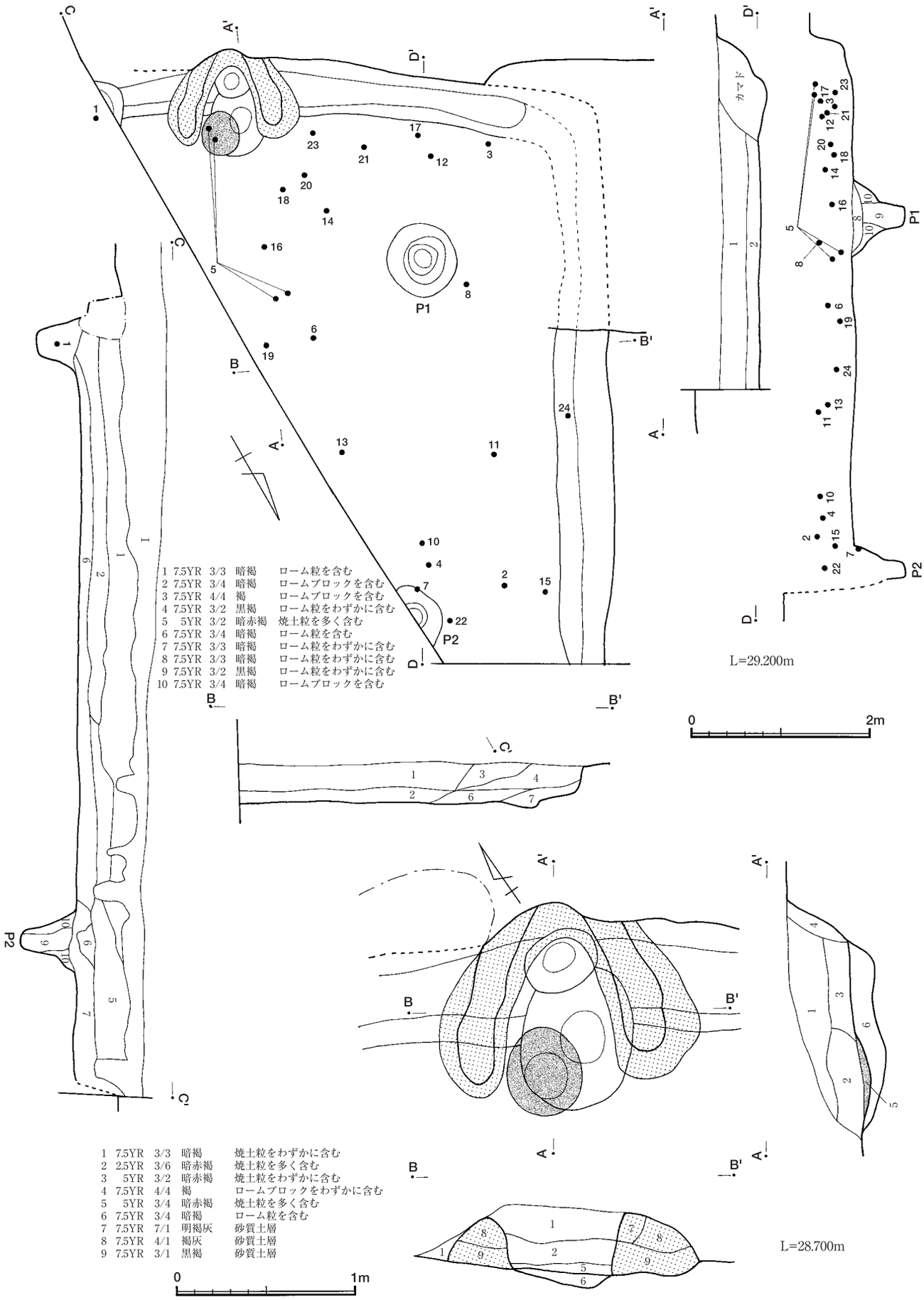
判読できない。５・６は須恵器甕，７は須恵器甑であり，底部に孔を５箇所，胴部に２箇所の突起を持つ。８の羽口は東壁際から出土した。９は刀子，10は紡錘車である。

34号住居跡（第19図）

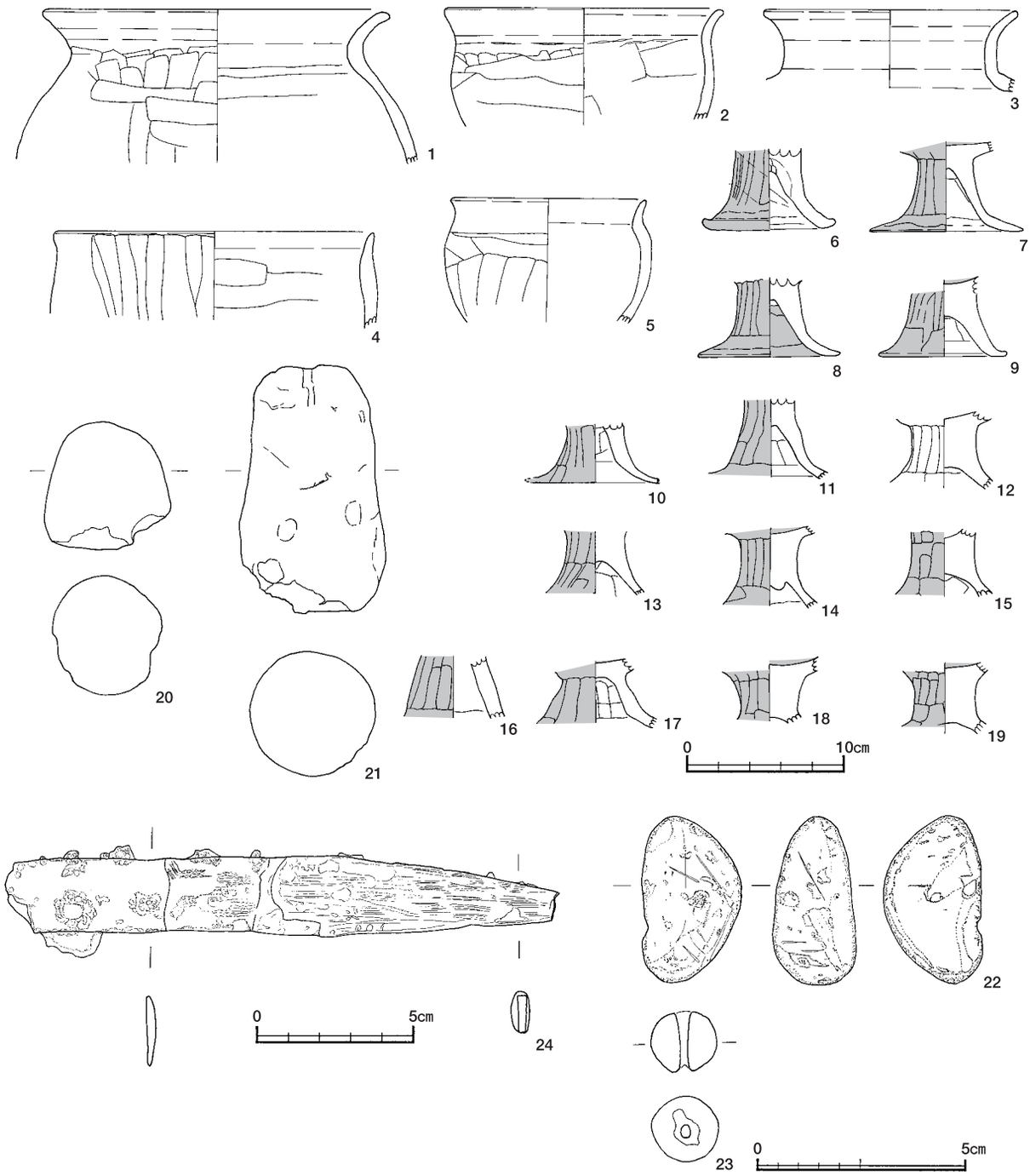
調査区の北東側，6B・5C・6Cに所在する。方形を呈し，東側は調査区外に広がる。33号住居跡と重複している。主軸方位はＮ－32°－Ｅである。壁高は，確認面から0.44～0.45mを測り，床面から0.15mまで垂直に立ち上がった後，傾斜して立ち上がる。周溝は検出されず，カマドを有する南壁は



第18図　33号住居跡出土遺物実測図

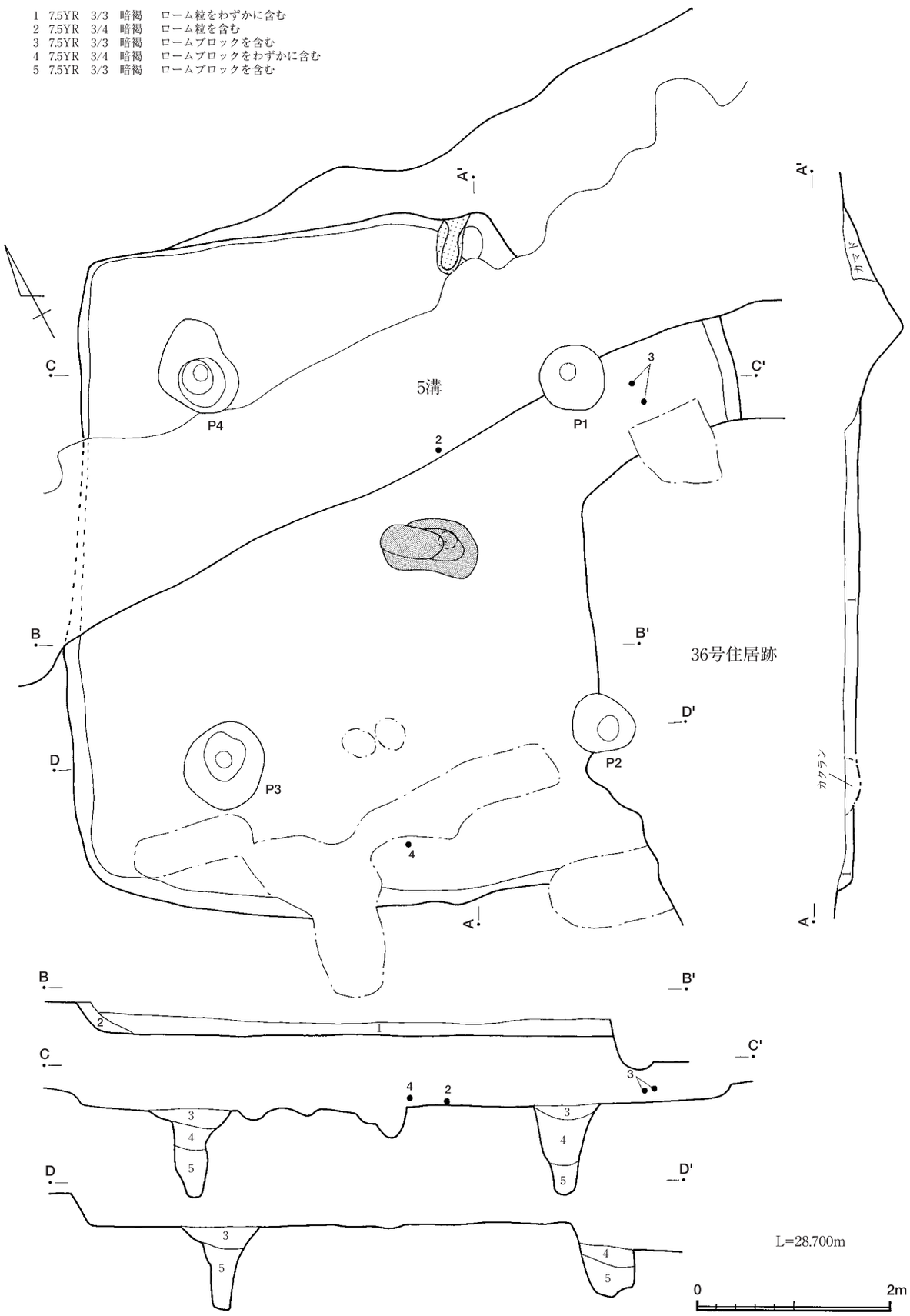


第19図　34号住居跡・カマド実測図

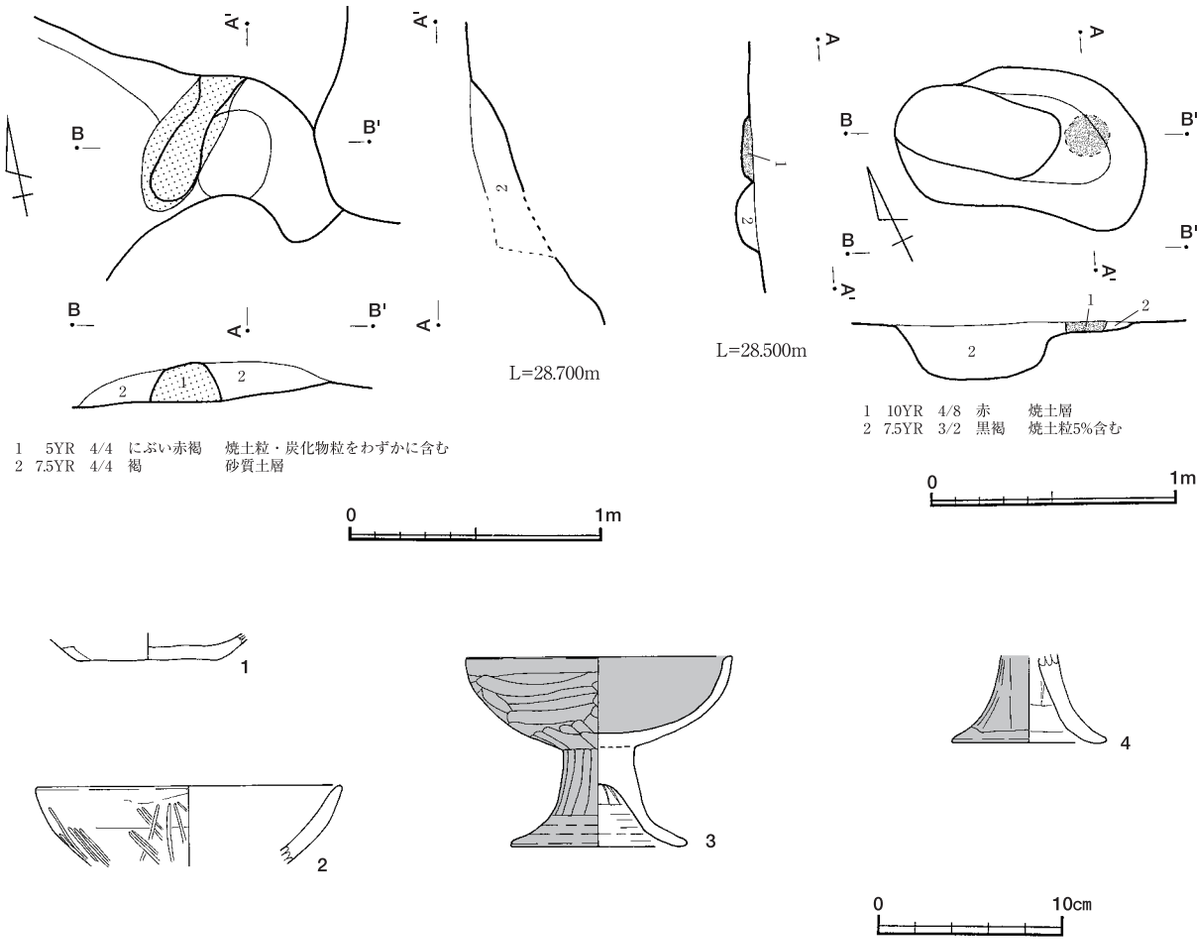


第20図　34号住居跡出土遺物実測図

段状に掘り込まれている。床面はハードローム層に達し，堅緻である。主柱穴は２本検出され，調査区外部分を含めると主柱穴の数は４本と想定される。直径0.76 ～ 0.84m，深さ0.54 ～ 0.59mを測る。カマドは南壁中央に位置し，主軸長1.20m，全幅1.41mを測る。内壁の最大幅は中央部分で0.57m，袖長は0.89mを測り，砂質粘土を主体として構築されている。火床面は直径0.39×0.49m，深さ0.08mを測る。



第21図　35号住居跡実測図



第22図　35号住居跡カマド・炉・出土遺物実測図

遺物は24点を図示した（第20図）。１～３は土師器甕，４は土師器鉢，５は土師器小型甕，６～19は高坏脚部，６～11・13～19は外面に赤彩を施している。22は砥石，23は土玉，24は刀子である。

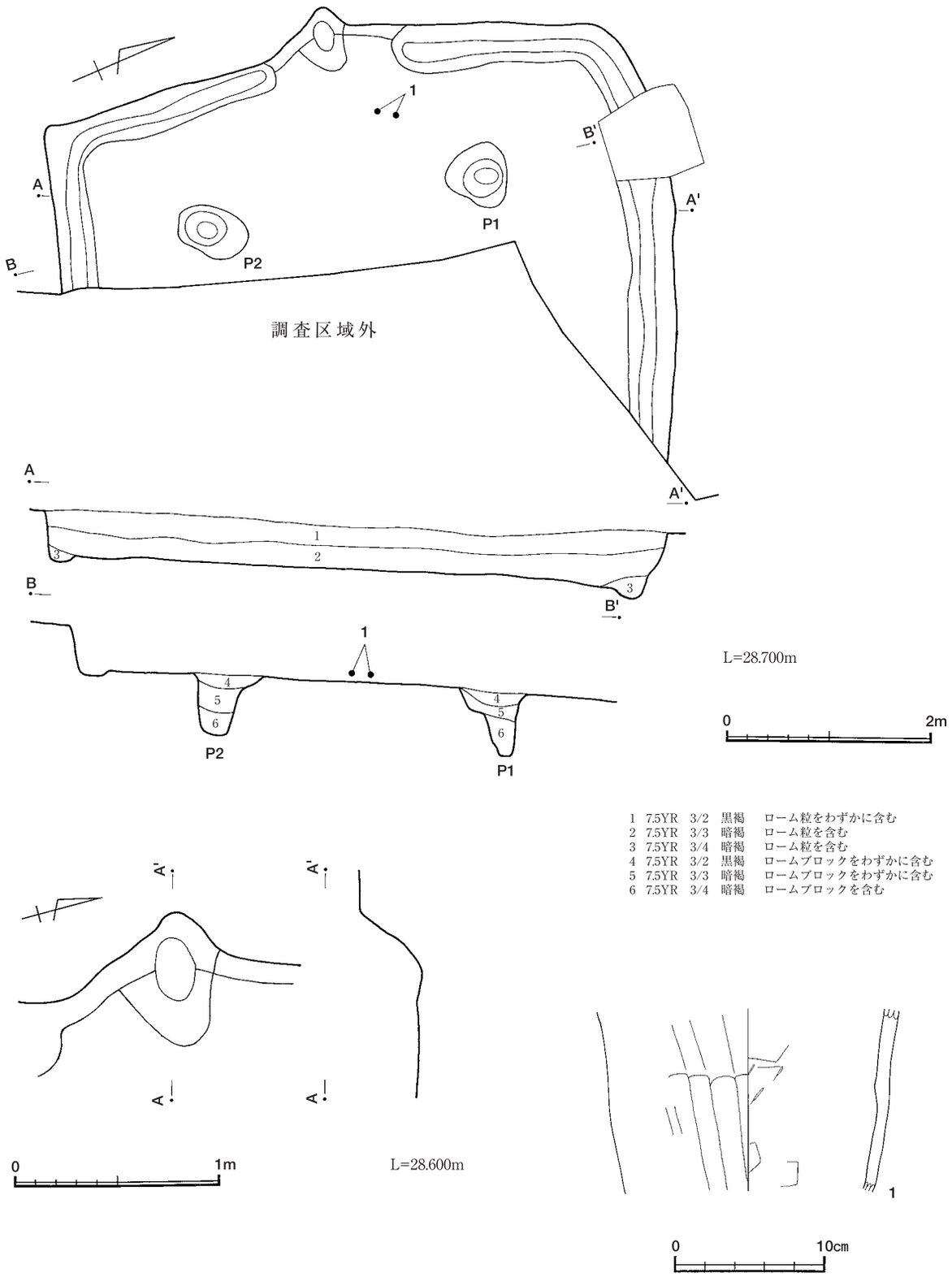
35号住居跡（第21・22図）

調査区の南東側，4E・5E・4F・5Fに所在する。規模は6.52×6.60mの方形を呈し，30号住居跡・５号溝と重複している。主軸方位はN－29°－Wである。壁高は，確認面から0.10～0.31mを測り，緩やかに立ち上がる。周溝は検出されなかった。床面はソフトローム層で軟弱である。主柱穴は4本検出され，直径0.63～0.87m，深さ0.66～0.88mを測る。カマドは北壁中央に位置し，大部分は５号溝に破壊されている。主軸長0.51m，全幅0.77mを測る。内壁の最大幅は中央部分で0.25m，袖長は0.59mを測り，砂質粘土を主体として構築されている。火床面は検出されなかった。

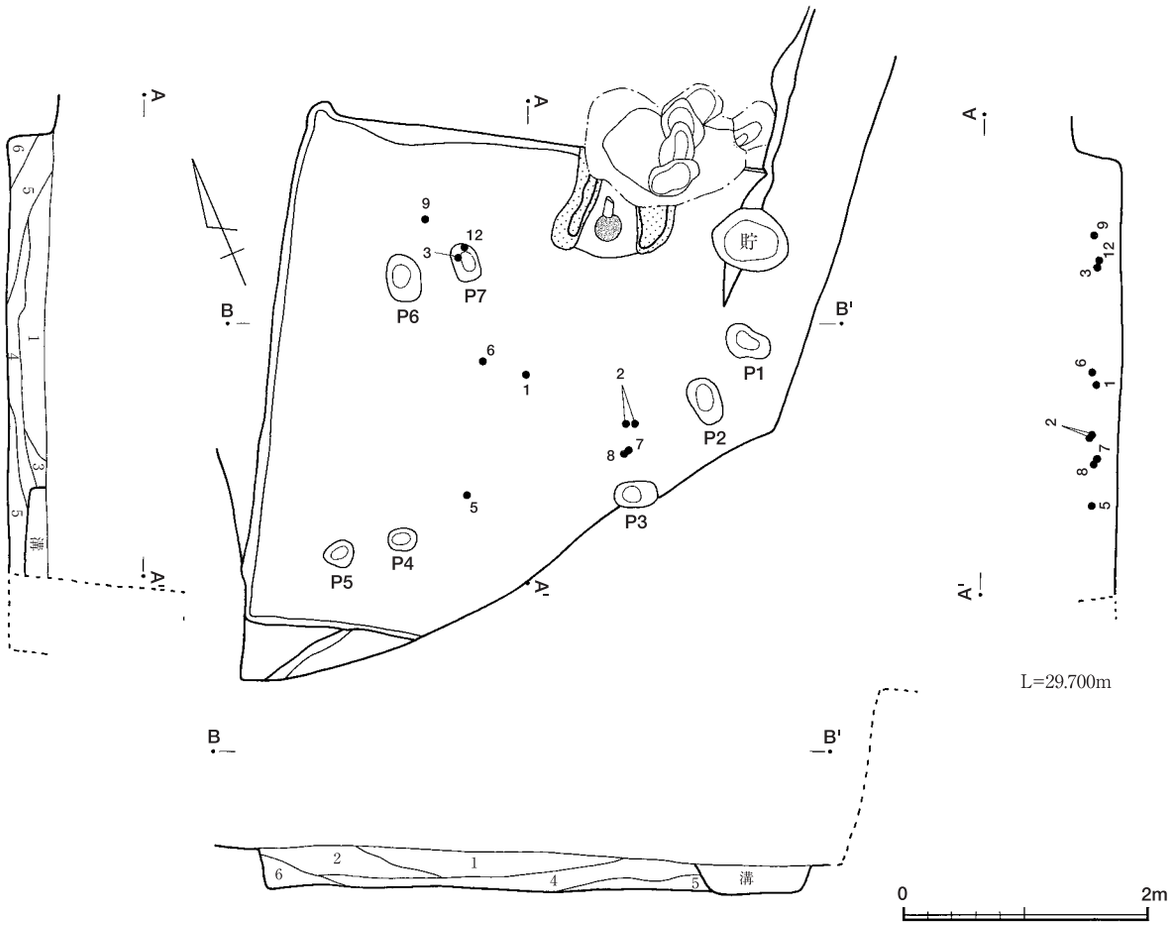
遺物は４点を図示した（第22図）。１・２は土師器坏，３・４の高坏は赤彩を施している。

36号住居跡（第23図）

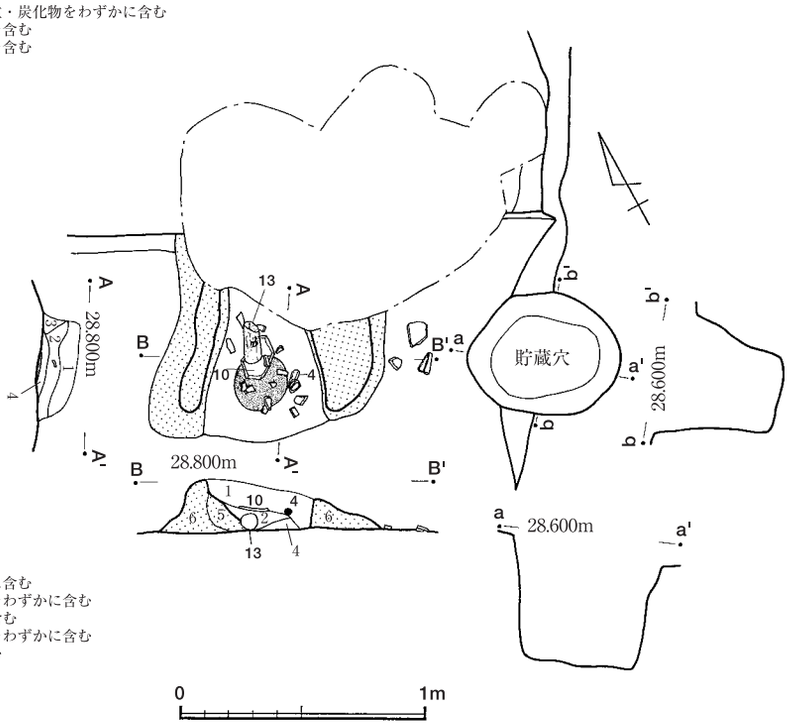
調査区の南東側，5F・6F・5Gに所在する。規模は6.46×6.42mの方形を呈し，東側は調査区外に広がり，35号住居跡と重複している。主軸方位はN－71°－Wである。壁高は，確認面から0.24～0.67mを測り，ほぼ垂直に立ち上がる。周溝は幅0.41～0.45m，深さ0.08～0.12mを測り，西壁の旧カマド部分を除き，全周する。床面はハードローム層に達し，堅緻である。主柱穴は２本検出され，



第23図　36号住居跡・カマド・出土遺物実測図

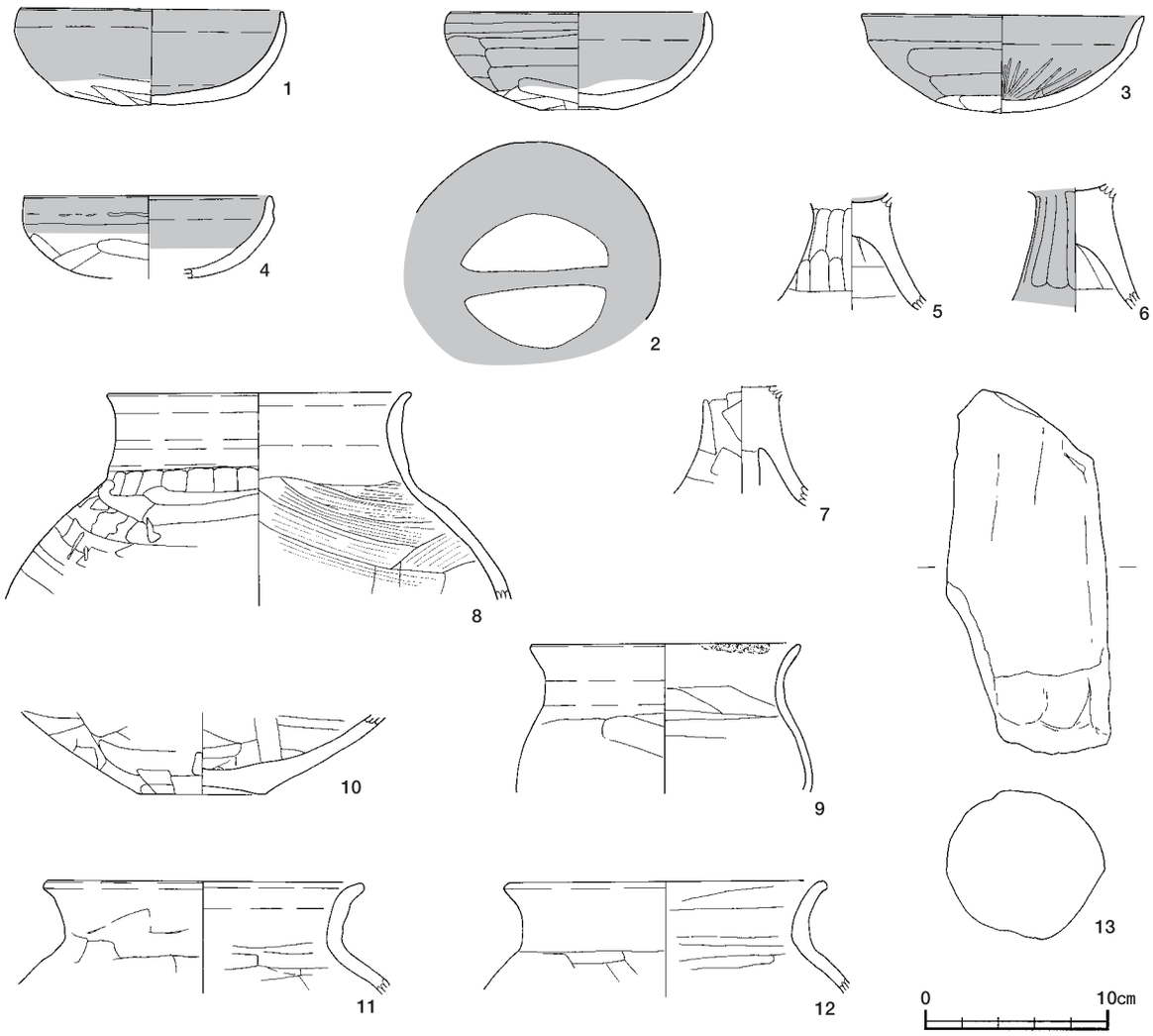


1　7.5YR　3/1　黒褐　　ローム粒・焼土粒・炭化物をわずかに含む
2　7.5YR　4/3　褐　　ローム粒・焼土粒・炭化物をわずかに含む
3　7.5YR　4/3　褐　　ローム粒を含む
4　7.5YR　3/4　暗褐　　ローム粒・焼土粒・炭化物をわずかに含む
5　10YR　4/3　にぶい黄褐　焼土粒・炭化物を含む
6　7.5YR　3/2　黒褐　　焼土粒・炭化物を含む



1　10YR　4/3　にぶい黄褐　砂質土をわずかに含む
2　7.5YR　4/3　褐　　焼土粒・炭化物をわずかに含む
3　10YR　4/3　にぶい黄褐　ローム粒を多く含む
4　7.5YR　3/4　暗褐　　焼土粒・炭化物をわずかに含む
5　10YR　4/2　灰黄褐　　砂質土を多く含む
6　10YR　4/2　灰黄褐　　砂質土層

第24図　37号住居跡・カマド・貯蔵穴実測図



第25図　37号住居跡出土遺物実測図

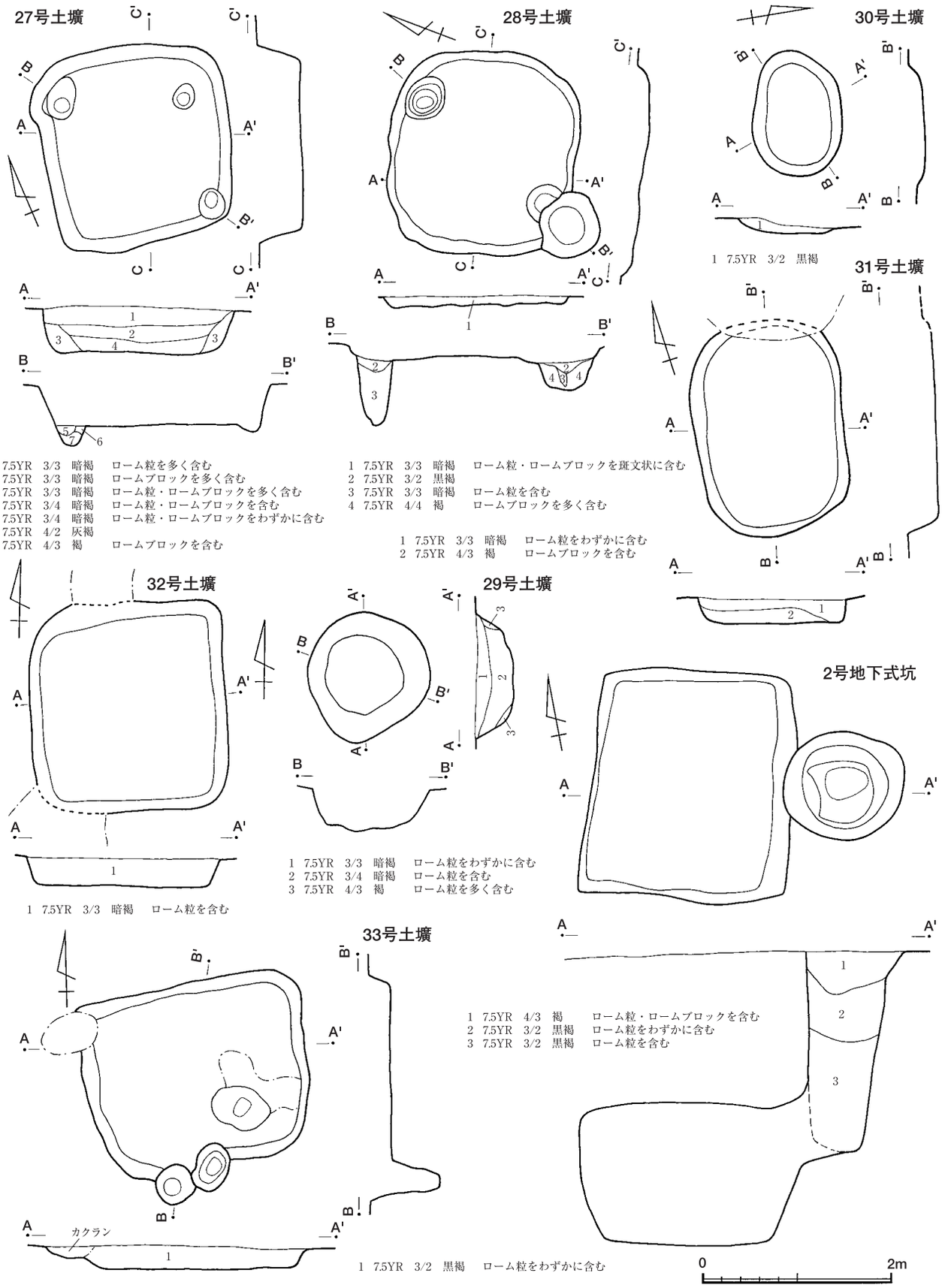
調査区外部分を含めると４本が想定される。直径0.46 ～ 0.72m，深さ0.54 ～ 0.66mを測る。第５ピットは検出されなかった。旧カマドが西壁に１基検出されたことから，カマドは調査区外にあると想定される。

遺物は数少なく，１点を図示するに止まった（第23図）。１は土師器甕である。

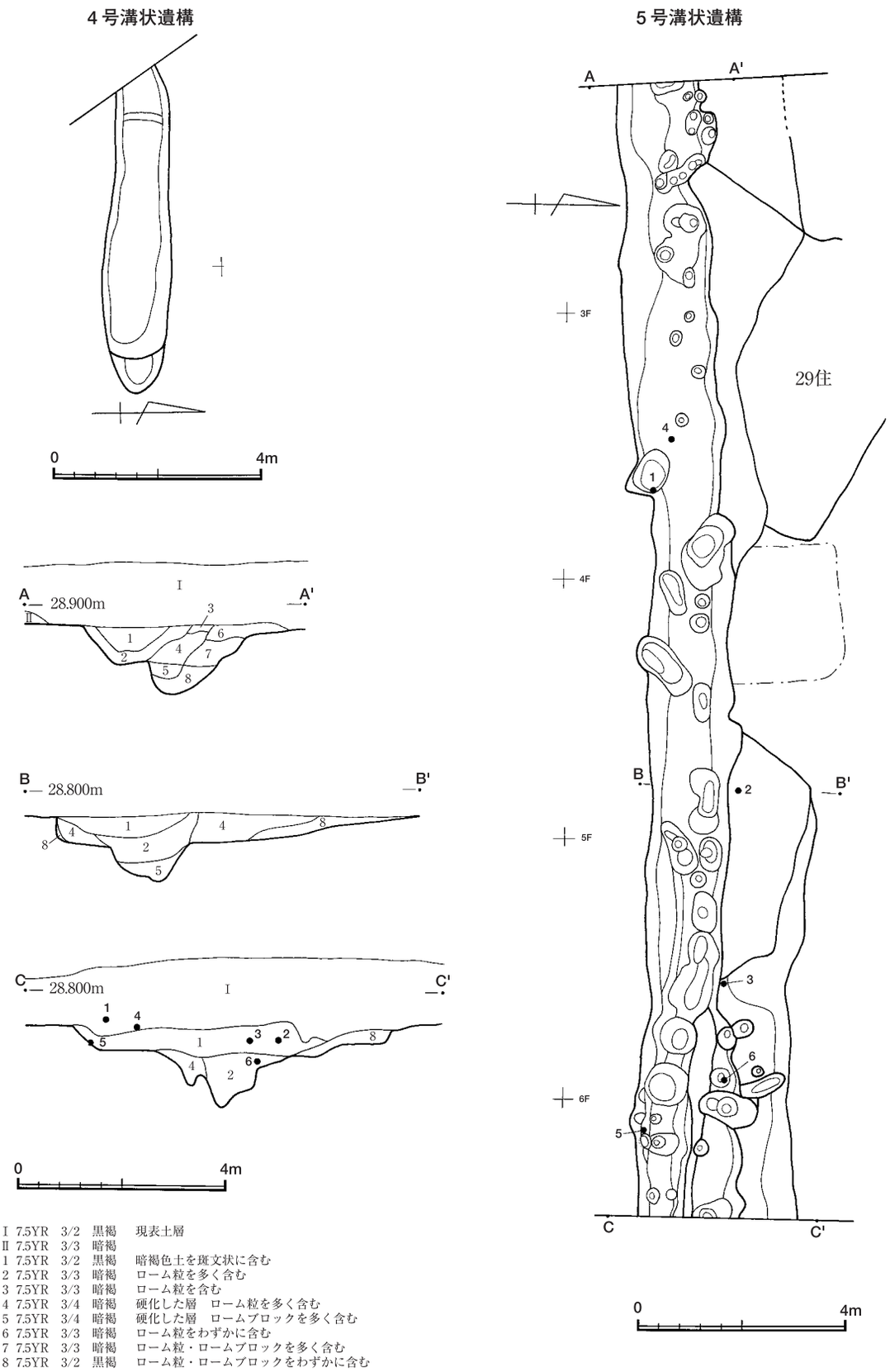
37号住居跡（第24図）

調査区の南側，2I・2Jに所在する。規模は4.12×4.20mの方形を呈し，近代の溝に切られている。主軸方位はN－22°－Wである。壁高は，確認面から0.34 ～ 0.40mを測り，ほぼ垂直に立ち上がる。周溝は検出されなかった。床面はソフトローム層で軟弱である。柱穴は７本検出され，直径0.17 ～ 0.40m，深さ0.07 ～ 0.29mを測る。カマドは北壁中央に位置するが，煙道部は後世の撹乱を受けている。主軸残存長0.56m，全幅0.86mを測る。内壁の最大幅は中央部分で0.39m，袖長は0.82mを測り，砂質粘土を主体として構築されている。火床面はわずかにくぼむ。貯蔵穴はカマドの東側に所在し，規模は0.48×0.62m，深さ0.46mを測り，遺物が多く出土した。

遺物は13点を図示した（第25図）。１～４の土師器坏は内外面に赤彩を施している。５～７の高坏

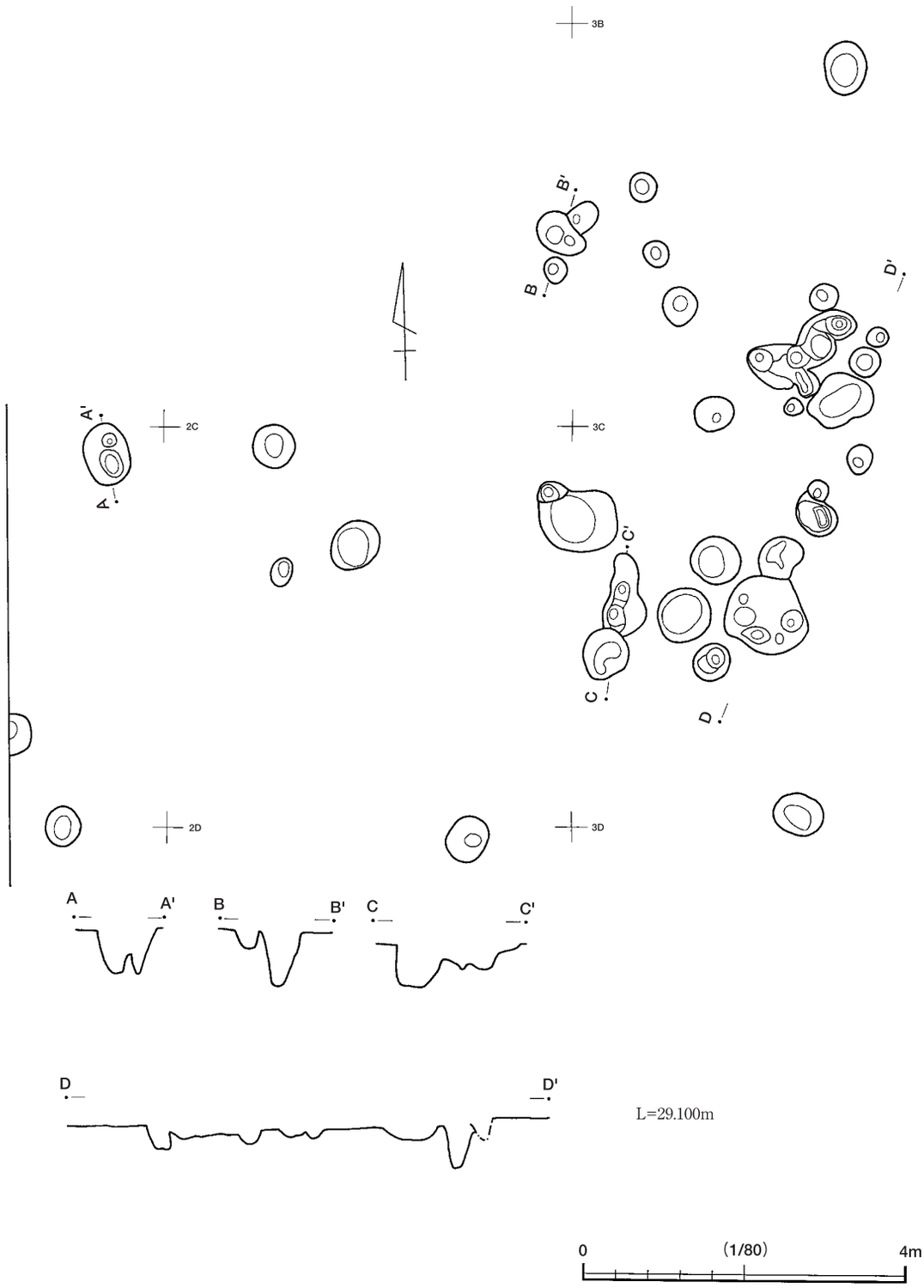


第26図　土壙・地下式坑実測図

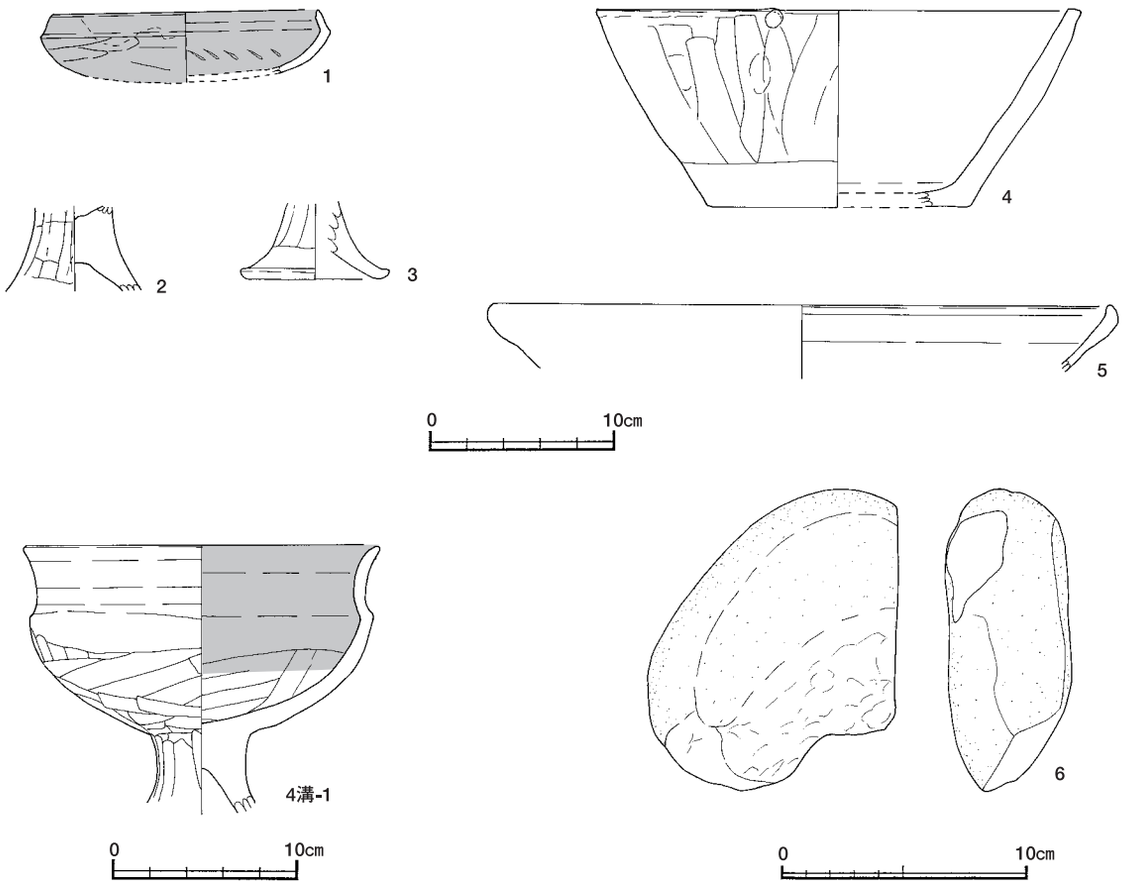


Ⅰ 7.5YR 3/2 黒褐 現表土層
Ⅱ 7.5YR 3/3 暗褐
1 7.5YR 3/2 黒褐 暗褐色土を斑文状に含む
2 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を多く含む
3 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を含む
4 7.5YR 3/4 暗褐 硬化した層 ローム粒を多く含む
5 7.5YR 3/4 暗褐 硬化した層 ロームブロックを多く含む
6 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒をわずかに含む
7 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒・ロームブロックを多く含む
8 7.5YR 3/2 黒褐 ローム粒・ロームブロックをわずかに含む

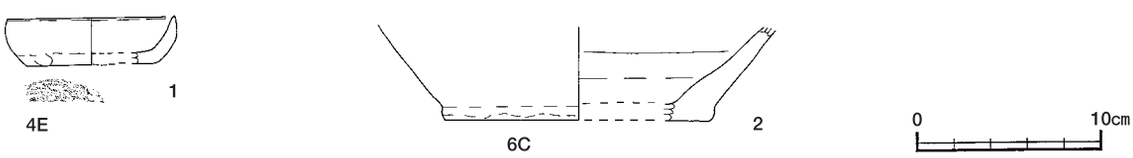
第27図 4号・5号溝状遺構実測図



第28図　ピット群実測図



第29図　４号・５号溝状遺構出土遺物実測図



第30図　調査区出土遺物実測図

脚部は外面と坏部内面に赤彩を施している。８～12は土師器甕，13は支脚である。

第２節　土壙・地下式坑（第26図）

土壙は７基，地下式坑は１基検出された。平面形や覆土の状況から，中・近世以降の所産と考えられる。

27号土壙

調査区の北側，2Bに所在する。平面形は方形を呈しており，規模は長軸2.14m，短軸2.00m，壁高0.49mを測る。

28号土壙

調査区の西側，1Dに所在する。平面形は円形を呈しており，規模は長軸2.16m，短軸2.04m，壁高

0.13mを測る。

29号土壙

調査区の南西側，2Fに所在する。平面形は円形を呈しており，規模は長軸1.39m，短軸1.30m，壁高0.47mを測る。

30号土壙

調査区の西側，2Dに所在する。平面形は楕円形を呈しており，規模は長軸1.30m，短軸0.39m，壁高0.16mを測る。

31号土壙

調査区の北東側，4B・5B・4C・5Cに所在する。平面形は楕円形を呈しており，規模は長軸2.25m，短軸1.58m，壁高0.23mを測る。

32号土壙

調査区の北東側，5Dに所在する。平面形は方形を呈しており，規模は長軸2.17m，短軸2.04m，壁高0.32mを測る。

33号土壙

調査区の北東側，5C・5Dに所在する。平面形は方形を呈しており，規模は長軸2.32m，短軸1.90m，壁高0.23mを測る。

２号地下式坑

調査区の北西側，2B・2Cに所在する。主軸方位はN－101°－Eである。入口部は円形を呈しており，規模は直径1.15×1.26m，深さ2.14mを測る。主室は方形で長軸2.39×短軸2.09m，深さ3.01mを測る。天井部は残存しており，厚さは1.59mを測る。

第３節　溝状遺構（第27図）

溝状遺構は２条検出されたが，覆土中に硬化面が検出されたことから道路跡と考えられる。出土した遺物から近世以降の所産と考えられ，平成元年度調査で検出された屋敷跡との有機的関連性が想定される。

４号溝状遺構

調査区の南西側，2F・3Fに所在する。30号住居跡と重複しており，幅0.95～1.34m，深さ0.37～0.64mを測る。土師器高坏（第29図）が出土したが，重複関係から30号住居跡のものと考えられる。

５号溝状遺構

調査区の中央部を東西に横断し，1E・2E・3E・4E・5E・6Eに所在する。29・30・35号住居跡をと重複しており，幅1.49～3.12m，深さ0.61～0.82mを測る。遺物は５点図示した（第29図）。１は土師器坏，２・３は土師器高坏，４は近世陶器鉢，５は近世陶器擂鉢１点，石１点である。

第４節　ピット群・調査区出土遺物（第28図・第30図）

調査区の北側，2C・3B・3Cにおいてピット群が検出されたが，時期・性格は不明である。また4Eから近世カワラケ，6Cから近世陶器鉢が出土した。

第3章　ま　と　め

台畑遺跡における縄文時代中期前半阿玉台式期の竪穴住居跡の軒数は，今回の27号住居跡と平成元年度調査成果の２軒となる。また本遺跡から北東方向に約700m離れた同一台地上に立地する根崎遺跡において同時期の竪穴住居跡８軒が検出している（註１）。両遺跡の立地状況から，廿五里支谷沿いの舌状台地上には当該期の集落跡の存在が想定される。千葉市内で阿玉台式期の遺跡はそれほど知られていないが，本遺跡の南にあたる貝塚町・東寺山町周辺には比較的多くの遺跡が知られ，谷を隔てた対岸には廿五里南貝塚・東寺山貝塚・東寺山南貝塚の貝塚遺跡が所在し，本遺跡とそれらの遺跡との関連が予想される。出土した阿玉台Ｉｂ式の土器は，口縁部には断面三角形の隆帯による区画文とその内部に角押文を，胴部には爪形文を施すものが主体を占める。また黒曜石製の小形の石匙（第６図28・29）の類例は千葉市内では少ないが，平山町に所在する越川戸遺跡（平成16年３月報告刊行）に同様の石器が出土している。

古墳～平安時代は本遺跡の主体となる時期であり，検出遺構は竪穴住居跡10軒である。各住居跡の時代区分は，古墳時代後期が28・29・30・34・35・37号住居跡の６軒，奈良時代が31号住居跡の１軒，平安時代が33号住居跡の１軒，時期不詳が32号・36住居跡の２軒と区分できる。

古墳時代後期の住居跡には，28号・37号住居跡のように主柱穴の間に補助的な柱穴を持つものが見られ，このような住居跡は平成元年度調査においても検出している（７～９号住居跡）。また28号・35号住居跡では，カマドの他に炉の存在が確認された。何らかの生活行為が働いていたと考えられるが，詳細は不明である。出土した坏・高坏には赤彩を施すものが主体を占める。

奈良時代の31号住居跡の時期は遺物から８世紀中頃と考えられ，出土した須恵器は常陸産のものが多い。また覆土上層から９世紀代の土師器坏（第15図１・２）も出土している。これらの出土位置は，硬化面のみ確認された32号住居跡と近接していることから，それらは32号住居跡に帰属する可能性が考えられる。

平安時代の33号住居跡の平面規模は小型化しており，床面からは主柱穴は検出されなかった。また完形の羽口が出土したが，調査区内では鉄滓など鍛冶関係を示す遺構・遺物は検出されなかった。

近世の遺構としては溝状遺構が２条検出されたが，覆土中に硬化面が検出されたことから道路跡と考えられ，平成元年度調査で検出された屋敷跡との有機的関連性が想定される。屋敷跡の時期は出土陶磁器の年代と覆土に宝永4年（1707）に噴火した富士山宝永火山灰の堆積が見られることなどから17世紀後半～18世紀前半を中心とした年代が考えられており（註２），今回の溝状遺構の時期も同時期の年代が想定される。

註１　湖口淳一　1997『千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅲ　根崎遺跡』㈶千葉市文化財調査協会
註２　白根義久　1996『千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅱ　台畑遺跡』㈶千葉市文化財調査協会

参考文献

上守秀明　2000『平成12年度埋蔵文化財専門技術講習会「遺物研究過程」各説６　縄文中期前半』　千葉県文化財センター
古墳時代土器研究会　1984『古墳時代土器の研究』　古墳時代土器研究会
古代生産史研究会　1997『東国の須恵器－関東地方における歴史時代須恵器の系譜』　古代生産史研究会

第１表　27号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm・g）				焼成	胎土	色調	備考
				口径	器高	最大径	底径				
1	土器	深鉢	完形	18.6	21.4	13.2	10.2	不良	雲母・砂粒	2.5YR4/6赤褐色	外面器壁，風化が著しい
2	土器	深鉢	2/3	－	26.7	16.6	11.0	普通	雲母・白色粒	5YR6/6橙色	外面器壁，風化が著しい
3	土器	深鉢	3/4	17.8	18.8	13.0	8.4	普通	雲母・白色粒	7.5YR7/6橙色	
4	土器	浅鉢	9/10	17.6	9.2	15.6	7.2	良	雲母・白色粒	7.5YR5/6明褐色	外面器壁，風化が著しい
5	土器	深鉢	3/4	11.4	15.1	9.6	6.0	不良	雲母・小石	7.5YR5/4にぶい褐色	外面器壁，風化が著しい
6	土器	深鉢	破片	(33.0)	－	－	－	普通	雲母・砂粒	7.5YR4/4褐色	
7	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	普通	雲母・白色粒	7.5YR5/6明褐色	
8	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	普通	雲母・白色粒	7.5YR4/4褐色	
9	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	普通	雲母・白色粒	7.5YR3/4暗褐色	
10	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	普通	雲母・小石	7.5YR4/3褐色	
11	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	普通	雲母・小石	10YR4/6褐色	
12	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	良	雲母・白色粒	7.5YR5/6明褐色	
13	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	良	雲母・砂粒	7.5YR5/6明褐色	
14	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	良	雲母・砂粒	7.5YR3/4暗褐色	
15	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	良	雲母・白色粒	7.5YR5/6明褐色	
16	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	良	雲母・小石	7.5YR3/3暗褐色	
17	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	良	雲母・小石	7.5YR5/3にぶい褐色	
18	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	良	雲母・小石	7.5YR4/4褐色	
19	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	良	雲母・白色粒	10YR3/3暗褐色	
20	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	普通	雲母・白色粒	7.5YR6/6橙色	
21	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	普通	雲母・白色粒	7.5YR5/8明褐色	
22	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	普通	雲母・白色粒	5YR4/2灰褐色	
23	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	普通	雲母・小石	7.5YR5/6明褐色	
24	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	普通	雲母・白色粒	7.5YR5/4にぶい褐色	
25	土器	深鉢	破片	－	－	－	－	普通	雲母・小石	7.5YR6/3にぶい褐色	
26	石器	磨石	長4.4	幅4.2	厚2.7	重69.0	－	－	－	－	砂岩
27	石器	磨石	長6.1	幅5.6	厚3.1	重156.0	－	－	－	－	花崗岩
28	石器	石匙	長3.1	幅2.2	厚1.1	重5.4	－	－	－	－	黒曜石
29	石器	石匙	長1.9	幅2.5	厚0.9	重2.0	－	－	－	－	黒曜石

第２表　28号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm・g）				調　　整		焼成	胎土	色　調	備　考
				口径	器高	最大径	底径	外　面	内面				
1	土師器	坏	1/4	(14.0)	(3.8)	－	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	良	白色粒	5YR4/6赤褐色	内外面赤彩
2	土師器	坏	1/6	(13.0)	(3.5)	－	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	良	白色粒	5YR4/6赤褐色	
3	土師器	坏	1/8	(13.0)	(2.7)	－	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	良	赤色粒	7.5YR6/4にぶい橙色	内外面赤彩
4	土師器	高坏	脚部	－	(5.2)	－	(8.0)	裾部ナデ・体部ヘラ削り	ヘラ削り	良	白色粒	10YR6/4にぶい黄橙色	外面赤彩
5	土師器	高坏	脚部	－	(5.3)	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り	普通	白色粒	10YR3/1黒褐色	脚外面・坏内面赤彩
6	土師器	高坏	脚部	－	(5.3)	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り	普通	白色粒	10YR3/2黒褐色	脚外面・坏内面赤彩
7	土製品	土玉	完形	径3.1	3.1	重26.0	－	－	－	－	－	7.5YR5/4にぶい褐色	
8	土製品	土玉	完形	径1.1	1.0	重 1.0	－	－	－	－	－	7.5YR5/4にぶい褐色	

第３表　29号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm）				調　　整		焼成	胎土	色　調	備　考
				口径	器高	最大径	底径	外　面	内面				
1	土師器	坏	完形	15.0	5.2	－	丸底	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	良	白色粒	7.5YR5/4にぶい褐色	内外面赤彩・内面ヘラ書き
2	土師器	坏	1/2	13.2	(4.7)	－	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	普通	砂粒	7.5YR5/6明褐色	内外面赤彩
3	土師器	高坏	1/2	(13.8)	(3.5)	－	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	普通	砂粒	10YR6/4にぶい黄橙色	内外面赤彩
4	土師器	甕	1/4	(16.3)	(16.5)	(26.0)	－	口縁部～頸部ナデ・体部ヘラ削り	ヘラナデ	普通	砂粒	10YR5/4にぶい褐色	

第４表　30号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm）				調　　整		焼成	胎土	色　調	備　考
				口径	器高	最大径	底径	外　面	内面				
1	土師器	坏	1/3	(12.5)	(4.2)	－	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	普通	白色粒	10YRにぶい黄橙色	内外面スス付着
2	土師器	高坏	脚部1/4	－	(3.8)	－	－	裾部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	普通	砂粒	7.5YR4/3褐色	
3	土師器	甕	胴部片	－	(12.8)	－	(13.0)	ヘラ削り	ヘラナデ	普通	雲母	7.5YR4/2灰褐色	
4	土師器	甕	胴部片	－	(7.8)	－	－	ヘラ削り	ナデ	普通	砂粒	5YR4/6赤褐色	

第５表－１　31号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm・g）				調　　整		焼成	胎土	色　調	備　考
				口径	器高	最大径	底径	外　面	内面				
1	土師器	坏	完形	12.6	4.1	－	4.1	ロクロ整形　手持ちヘラ削り		普通	白色粒	7.5YR4/6褐色	
2	土師器	坏	1/4	(12.4)	3.5	－	(6.0)	ロクロ整形　回転糸切り		普通	白色粒	7.5YR5/4にぶい褐色	
3	須恵器	坏	3/4	14.0	4.3	－	8.5	ロクロ整形　回転ヘラ切り後手持ち篦削り		不良	雲母	2.5Y5/2 明灰黄色	常陸産
4	須恵器	坏	1/4	(14.2)	3.9	－	8.4	ロクロ整形　回転ヘラ切り後手持ち篦削り		普通	雲母	2.5Y7/1灰白色	常陸産
5	須恵器	坏	1/3	(14.0)	4.0	－	7.7	ロクロ整形　回転ヘラ切り後手持ち篦削り		普通	雲母	2.5Y5/1黄灰色	常陸産
6	須恵器	坏	1/4	(13.5)	4.2	－	8.4	ロクロ整形　回転ヘラ切り		普通	雲母	5Y5/1灰色	常陸産
7	須恵器	坏	1/4	(14.0)	3.8	－	(8.0)	ロクロ整形　回転ヘラ切り後手持ち篦削り		普通	雲母	2.5Y6/1黄灰色	常陸産
8	須恵器	坏	1/3	(14.2)	3.8	－	8.5	ロクロ整形　回転ヘラ切り後手持ち篦削り		不良	砂粒	2.5Y5/1黄灰色	常陸産
9	須恵器	坏	1/3	(13.9)	3.7	－	(8.8)	ロクロ整形　回転ヘラ切り後手持ち篦削り		普通	白色粒	2.5Y6/1黄灰色	常陸産
10	須恵器	坏	1/4	(13.5)	4.3	－	(7.0)	ロクロ整形　回転ヘラ切り		良	白色粒	5Y5/1灰色	常陸産
11	須恵器	蓋	1/4	－	(3.5)	－	－	ロクロ整形		不良	雲母	2.5Y6/3にぶい黄色	常陸産
12	須恵器	高台付坏	1/6	(13.3)	3.7	－	(9.2)	ロクロ整形		良	白色粒	5YR6/1灰色	東海産
13	須恵器	高台付坏	1/6	(14.7)	3.5	－	(10.7)	ロクロ整形		良	白色粒	2.5Y6/1黄灰色	東海産
14	須恵器	蓋	1/4	－	(2.9)	－	(16.6)	ロクロ整形		普通	白色粒	2.5Y6/1黄灰色	東海産
15	須恵器	甕	底部1/4	－	(2.4)	－	(8.1)	ロクロ整形　回転ヘラ削り		良	白色粒	5Y5/1灰色	内外面釉
16	土師器	埦	1/8	(14.0)	5.9	－	(6.0)	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ナデ	良	白色粒	5YR5/6明赤褐色	
17	土師器	高坏	基部	－	(4.5)	－	－	手持ちヘラ削り		不良	砂粒	7.5YR5/4にぶい褐色	
18	土師器	小型甕	4/5	13.8	13.8	14.8	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	不良	砂粒	7.5YR3/1黒褐色	外面スス付着
19	土師器	小型甕	4/5	15.8	15.8	16.3	7.4	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	普通	砂粒	5YR4/4にぶい赤褐色	口縁外面スス付着
20	土師器	小型甕	1/4	(14.0)	(5.3)	－	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ヘラナデ	良	白色粒	5YR5/6明赤褐色	
21	土師器	小型甕	1/4	(15.2)	(6.8)	－	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	良	白色粒	5YR4/6赤褐色	
22	土師器	甕	1/2	(26.4)	(26.4)	(27.0)	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ヘラナデ	良	砂粒	7.5YR5/4にぶい褐色	
23	土師器	甕	1/3	(20.1)	(11.5)	(22.2)	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ヘラナデ	普通	白色粒	5YR5/4にぶい赤褐色	
24	土師器	甕	1/4	(26.3)	(26.3)	(23.5)	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ヘラナデ	普通	砂粒	10YR6/4にぶい黄橙色	
25	土師器	甕	1/4	(28.0)	(10.8)	(21.2)	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	良	砂粒	5YR5/6明赤褐色	
26	土師器	甕	1/4	(22.2)	(10.3)	(19.4)	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	良	砂粒	5YR5/6明赤褐色	
27	土師器	甕	1/4	(22.0)	(6.3)	－	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	普通	砂粒	7.5YR5/4にぶい褐色	輪積み痕
28	土師器	甕	1/4	(20.6)	(7.5)	－	－	口縁部ナデ・体部ヘラ削り	ナデ	普通	砂粒	7.5YR6/6橙色	輪積み痕

第５表－２　31号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm・g）				調　　整		焼成	胎土	色　調	備　考
				口径	器高	最大径	底径	外　面	内面				
29	手捏ね	－	1/4	(4.0)	(3.6)	－	－	手持ちヘラ削り	－	普通	白色粒	7.5YR4/4褐色	
30	支脚	－		径6.8	(5.7)	－	－	－	－	－	－	2.5YR3/3暗赤褐色	
31	石	不明		長10.9	幅7.1	厚2.3	重323.4	－	－	－	－	－	雲母片岩
32	鉄製品	鎌		長2.3	幅2.8	厚0.3	重8.0	－	－	－	－	－	
33	鉄製品	鎌		長4.0	幅3.6	厚0.3	重8.0	－	－	－	－	－	

第６表　33号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm・g）				調　　整		焼成	胎土	色　調	備　考
				口径	器高	最大径	底径	外　面	内面				
1	土師器	坏	1/8	(16.0)	(4.5)	－	－	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ヘラナデ	不良	白色粒	10R3/4暗赤褐色	内外面赤彩
2	須恵器	坏	1/5	－	(2.1)	－	7.8	ロクロ整形　回転ヘラ切り後回転ヘラ削り		良	白色粒	5Y2/2オリーブ黒色	外面火ダスキ痕 内外面くすべ
3	須恵器	坏	5/6	13.0	4.1	－	7.0	ロクロ整形　回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		不良	白色粒	2.5Y1/4黄灰色	内外面スス付着 底部外面朱書き？
4	土師器	甕	1/6	(12.6)	(6.5)	(12.5)	－	口縁部なで・体部手持ちヘラ削り	ナデ	不良	白色粒	5YR5/8明赤褐色	内外面赤彩　外面スス付着
5	須恵器	甕	4/5	24.0	26.6	25.7	(14.8)	ロクロ整形　タタキ手持ちヘラ削り	あて具痕	普通	白色粒	5YR2/2黒褐色	
6	須恵器	甕or甑	1/3	－	(17.8)	－	(14.2)	ロクロ整形　タタキ手持ちヘラ削り	あて具痕	普通	白色粒	10Y2/1黒色	
7	須恵器	甑	2/3	26.4	24.0	－	14.0	ロクロ整形　タタキ手持ちヘラ削り	あて具痕	普通	白色粒	10YR5/3にぶい黄褐色	輪積み痕　突起２箇所
8	羽口	－		長23.1	径7.7	10.2		－	－	－	－	－	
9	鉄製品	刀子		長13.2	幅0.8～1.9	厚0.2～0.3	重23.0	－	－	－	－	－	
10	鉄製品	紡錘車		長4.2	径0.4	径2.6	重13.0	－	－	－	－	－	

第７表－１　34号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm・g）				調　　整		焼成	胎土	色　調	備　考
				口径	器高	最大径	底径	外　面	内面				
1	土師器	甕	口縁部	22.0	9.5	－	－	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ヘラナデ	普通	砂粒	7.5YR5/6明褐色	
2	土師器	甕	1/4	17.2	7.5	－	－	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ヘラナデ	普通	砂粒	2.5YR3/3暗赤褐色	輪積み痕
3	土師器	甕	1/5	15.4	4.5	－	－	ナデ	ナデ	普通	赤色粒	7.5YR5/8明褐色	
4	土師器	鉢	1/5	20.0	5.5	－	－	ヘラ削り	ヘラナデ	普通	白色粒	2.5Y3/1黒褐色	
5	土師器	小型甕	3/4	12.1	7.5	－	－	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り		普通	白色粒	2.5YR3/3暗赤褐色	内外面赤彩　スス付着
6	土師器	高坏	脚部	－	4.5	－	8.4	裾部ナデ・体部ヘラ削り	ヘラ削り	良	砂粒	10YR6/4にぶい黄橙色	外面・裾部内面赤彩
7	土師器	高坏	脚部	－	5.5	－	9.6	裾部ナデ・体部ヘラ削り	ヘラ削り	良	白色粒	10YR5/6黄橙色	脚部外面・坏部内面赤彩
8	土師器	高坏	脚部	－	4.8	－	8.6	裾部ナデ・体部ヘラ削り	ヘラ削り	良	雲母	10YR6/4にぶい黄橙色	外面赤彩　輪積み痕
9	土師器	高坏	脚部	－	5.0	－	8.0	裾部ナデ・体部ヘラ削り	ヘラ削り	不良	白色粒	10YR4/2灰黄褐色	基部外面・坏部内面赤彩
10	土師器	高坏	脚部	－	3.5	－	8.0	ヘラ削り	ヘラ削り	良	砂粒	10YR5/4にぶい黄褐色	外面赤彩
11	土師器	高坏	脚部	－	5.0	－	－	ヘラ削り後ナデ	ヘラ削り	良	白色粒	7.5YR5/4にぶい褐色	外面赤彩
12	土師器	高坏	脚部	－	4.5	－	－	ヘラ削り後ナデ	ヘラ削り	不良	砂粒	5YR4/4にぶい赤褐色	
13	土師器	高坏	脚部	－	3.8	－	－	ヘラ削り後ナデ	ヘラ削り	良	白色粒	10YR5/4にぶい黄褐色	脚部外面・坏部内面赤彩
14	土師器	高坏	脚部	－	4.6	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り	普通	砂粒	2.5YR4/6赤褐色	脚部外面・坏部内面赤彩
15	土師器	高坏	脚部	－	3.5	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り	普通	砂粒	10YR6/4にぶい黄橙色	外面赤彩
16	土師器	高坏	脚部	－	4.0	－	－	ヘラ削り		良	砂粒	2.5YR5/6明赤褐色	外面赤彩
17	土師器	高坏	脚部	－	4.0	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り	良	砂粒	5YR4/6赤褐色	脚部外面・坏部内面赤彩
18	土師器	高坏	脚部	－	4.3	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り	不良	砂粒	7.5YR5/4にぶい褐色	脚部外面・坏部内面赤彩
19	土師器	高坏	脚部	－	4.5	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り	不良	砂粒	5YR5/6明赤褐色	脚部外面・坏部内面赤彩
20	支脚	－	－	径8.0	8.0	－	－	－	－	－	－	5YR5/3にぶい赤褐色	

第７表－２　34号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm・g）				調　　整		焼成	胎土	色　調	備　考
				口径	器高	最大径	底径	外　面	内面				
21	土製品	支脚	－	径7.8	15.3	－	－	－	－	－	－	5YR5/3にぶい赤褐色	
22	土製品	土玉	完形	径3.1	2.9	－	重25.0	－	－	－	－	2.5YR4/6赤褐色	
23	軽石	浮子	－	長7.9	幅4.6	厚3.5	重21.0	－	－	－	－	－	
24	鉄製品	刀子	－	長17.1	幅2.2	厚0.3	重38.0	－	－	－	－	－	

第８表　35号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm）				調　　整		焼成	胎土	色　調	備　考
				口径	器高	最大径	底径	外　面	内面				
1	土師器	坏	底部	－	4.2	－	7.4	回転ヘラ切り		不良	砂粒	7.5YR4/6褐色	
2	土師器	坏	1/4	16.0	4.2	－	－	ヘラ削り　ミガキ		不良	砂粒	7.5YR4/3褐色	
3	土師器	高坏	2/3	13.8	10.1	－	9.0	ヘラ削り　口縁・脚裾部ナデ	ナデ	良	赤色粒	10R5/6赤色	内外面赤彩
4	土師器	高坏	脚部	－	4.7	－	7.8	裾部ナデ・脚部ヘラ削り		良	砂粒	7.5YR6/4にぶい橙色	

第９表　36号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm）				調　　整		焼成	胎土	色　調	備　考
				口径	器高	最大径	底径	外　面	内面				
1	土師器	甕	胴部片	－	11.9	－	－	ヘラ削り	ヘラナデ	不良	砂粒	5YR4/6赤褐色	

第10表　37号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm）				調　　整		焼成	胎土	色　調	備　考
				口径	器高	最大径	底径	外　面	内面				
1	土師器	坏	完形	14.0	5.2	－	5.5	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ナデ	良	白色粒	7.5YR5/4にぶい褐色	内外面赤彩
2	土師器	坏	1/4	(13.7)	5.2	－	4.1	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ナデ	良	白色粒	7.5YR4/4褐色	内外面赤彩
3	土師器	坏	1/5	(14.9)	5.2	－	－	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ヘラミガキ	良	白色粒	10YR6/4にぶい黄橙色	内外面赤彩
4	土師器	坏	1/4	(13.1)	(4.5)	－	－	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ヘラミガキ	良	白色粒	7.5YR6/4にぶい橙色	内外面赤彩
5	土師器	高坏	脚部	－	(6.3)	－	－	脚部ヘラ削り	ヘラ削り	普通	砂粒	7.5YR5/6明褐色	内面赤彩
6	土師器	高坏	脚部	－	(6.7)	－	－	脚部ヘラ削り	ヘラ削り	普通	砂粒	7.5YR6/4にぶい橙色	内外面赤彩
7	土師器	高坏	脚部	－	(6.4)	－	－	脚部ヘラ削り	ヘラ削り	普通	砂粒	7.5YR6/4にぶい橙色	内外面赤彩
8	土師器	甕	1/5	(16.0)	(11.0)	－	－	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ヘラ削り	普通	白色粒	7.5YR5/3にぶい褐色	口縁外面スス付着
9	土師器	甕	1/5	(14.3)	(8.0)	－	－	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ヘラ削り	良	白色粒	7.5YR4/4褐色	口縁外面スス付着
10	土師器	甕	底部	－	(4.3)	－	6.8	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ヘラ削り	普通	砂粒	7.5YR6/4にぶい橙色	
11	土師器	甕	口縁1/5	(16.8)	(6.0)	－	－	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ヘラ削り	良	砂粒	5YR4/4にぶい赤褐色	
12	土師器	甕	口縁部片	(17.0)	(6.2)	－	－	口縁部ナデ・体部手持ちヘラ削り	ナデ	普通	砂粒	10YR2/1黒色	
13	支脚	－		径8.5	(19.5)	－	－	－	－	－	－	－	

第11表　溝状遺構・調査区出土遺物観察表

番号	種別	器種	遺存度	計測値（cm・g）				調　　整		焼成	胎土	色　調	備　考
				口径	器高	最大径	底径	外　面	内面				
4号1	土師器	高坏	1/3	18.7	15.1	－	－	ヘラ削り　口縁部ナデ	ヘラナデ	良	砂粒	5YR4/4にぶい赤褐色	内面赤彩
5号1	土師器	坏	1/8	14.0	2.3	－	－	ヘラ削り　口縁部ナデ	ナデ	良	砂粒	10R3/3暗赤褐色	内外面赤彩　スス付着
5号2	土師器	高坏	脚部	－	4.5	－	－	ヘラ削り		普通	砂粒	7.5YR5/4にぶい褐色	外面赤彩
5号3	土師器	高坏	脚部1/6	－	3.0	－	7.8	ヘラ削り　脚裾部ナデ	ナデ	普通	砂粒	7.5YR5/4にぶい褐色	
5号4	陶器	鉢	1/6	25.4	10.5	－	13.0	ヘラ削り				7.5YR5/4にぶい褐色	瀬戸・美濃
5号5	陶器	擂り鉢	1/8	32.6	3.5	－	－	ナデ	ナデ			10R3/1暗赤灰色	瀬戸・美濃
5号6	石	不明	－	長12.0	幅9.8	厚5.0	重775.0	－	－	－	－	－	
4E1	土師器	カワラケ	1/5	4.5	2.5	－	3.3	ナデ　回転糸切り	ナデ			10YR6/6明黄褐色	在地産
6C2	陶器	鉢	底部1/6	－	5.0	－	14.0	ナデ	ナデ			7.5YR5/4にぶい褐色	瀬戸・美濃

写　真　図　版

調査前状況

調査区全景（北から）

調査区全景（南から）

27号住居跡

27号住居跡土器出土状況１

27号住居跡土器出土状況２

28号住居跡・31号土壙

28号住居跡カマド

写真図版２

29号・30号住居跡

29号住居跡カマド

30号住居跡カマド

31号・32号住居跡

31号住居跡旧カマド１掘方

31号住居跡旧カマド２掘方

33号住居跡

33号住居跡カマド

33号住居跡遺物出土状況

34号住居跡

34号住居跡カマド

35号・36号住居跡

35号住居跡カマド

36号住居跡旧カマド掘方

37号住居跡

37号住居跡カマド

写真図版４

27号土壙

28号土壙

29号土壙

30号土壙

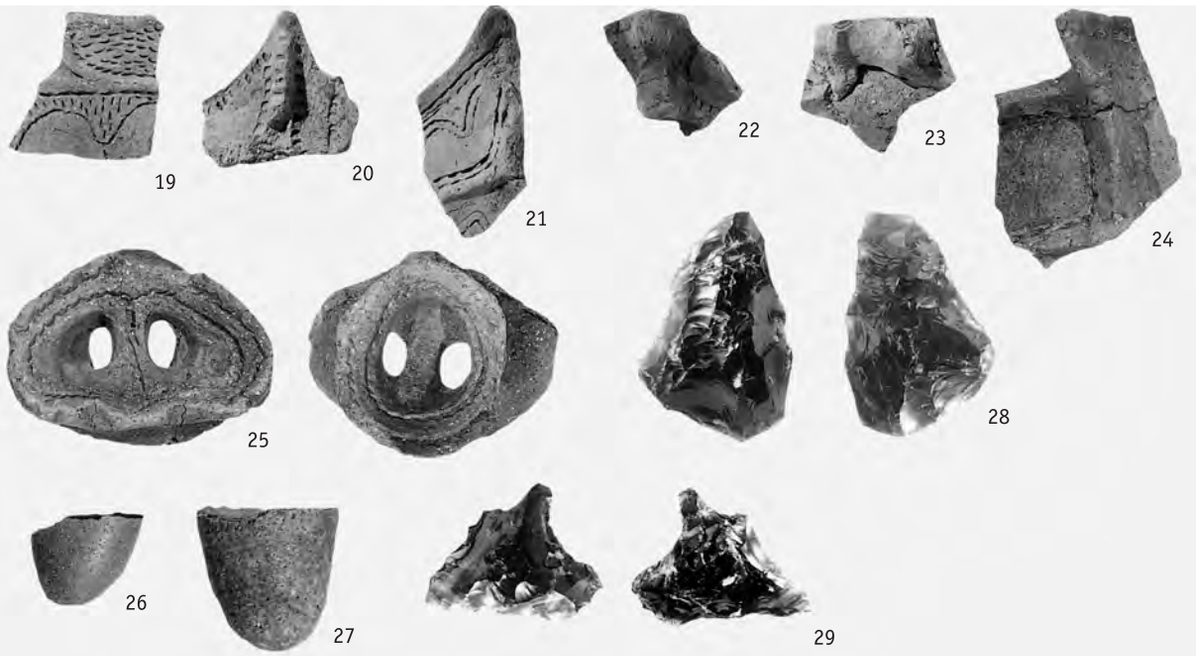
32号土壙

33号土壙

２号地下式土坑　入口部

ピット群

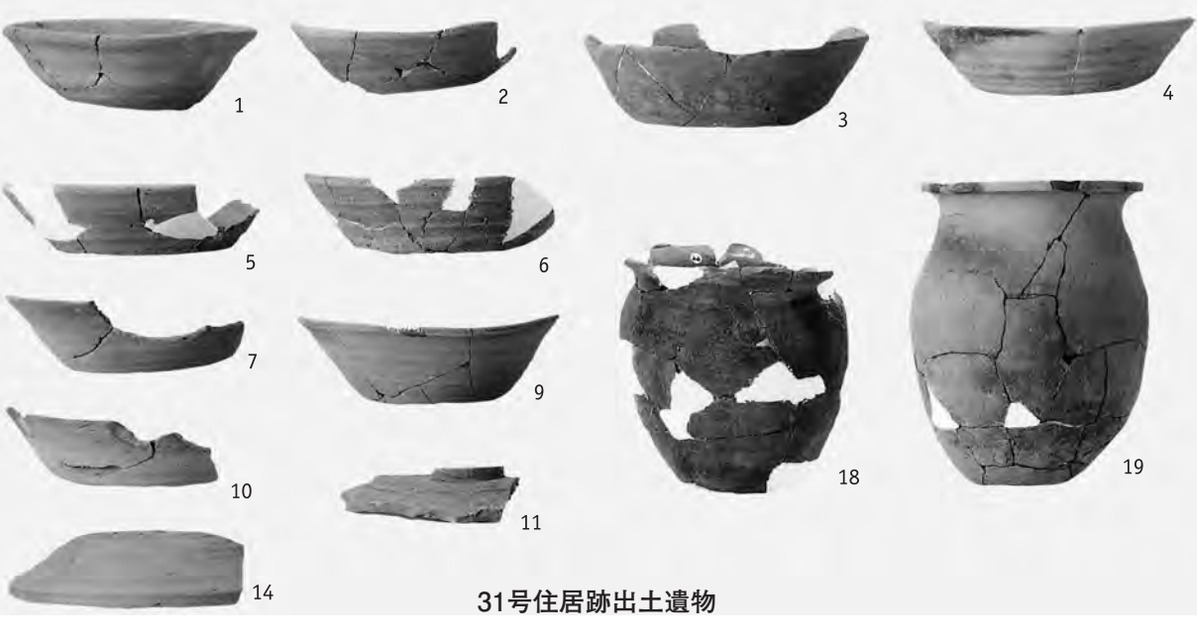
27号住居跡出土遺物１



27号住居跡出土遺物２

28号住居跡出土遺物

29号住居跡出土遺物



31号住居跡出土遺物

33号住居跡出土遺物

34号住居跡出土遺物

35号住居跡出土遺物

37号住居跡出土遺物

４号溝状遺構出土遺物

５号溝状遺構出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばしだいはたいせき
書名	千葉市台畑遺跡
副書名	平成15年度調査
巻次	
シリーズ名	
シリーズ号	
編著者名	塚原勇人
編集機関	財団法人千葉市教育振興財団 埋蔵文化財調査センター
所在地	〒260-0814　千葉市中央区南生実町1210　　TEL　043-266-5433
発行年月日	2004年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	本調査面積 ㎡	調査原因
台畑遺跡（だいはたいせき）	千葉市若葉区原町159-2番地他	12104	若葉区	35°37′43″	140°08′27″	20031001～20031107	700㎡	墓地造成
				旧座標				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺稿	主な遺物	特記事項
台畑遺跡（だいはたいせき）	集落跡	縄文時代	縄文時代住居跡　１軒	縄文時代　土器・石器	
		古墳時代～奈良・平安時代	古墳時代～奈良・平安時代住居跡　10軒	古墳～奈良・平安時代土師器・須恵器・鉄器	
		中・近世	中・近世土壙　８基 中・近世地下式坑　１基 近世溝状遺構　２条	近世　陶器	

千 葉 市 台 畑 遺 跡

— 平成15年度調査 —

平成16年３月31日発行

編集・発行　正　福　寺
〒264-0034 千葉市若葉区原町159-1
財団法人千葉市教育振興財団
埋蔵文化財調査センター
〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210
TEL　043－266－5433

印　　刷　株式会社　正　文　社
〒260-0001 千葉市中央区都町1-10-6
TEL　043－233－2235